

# アルパック ニュースレター

地域計画・建築研究所

## ニュースレター50号をむかえて

代表取締役社長 金井 萬造

アルパックとその人間に興味をおもちになっている方、ひとこと文句を言ってやろうと思っていらっしゃるの方のための「受像機」——として発行を始めましたニュースレターも、1983年7月以来8年以上が過ぎ、今月号で第50号を発行する運びとなりました。その間、ニュースレターの名前にありますように「ニュース」と「レター」の要素を持った手軽に読んでいただける冊子として、手作りながらも2ヶ月に1回の発行を続けることができました。

発行を始めた83年頃は、当社の名古屋事務所を創設した時期ですが、我々の業界はオイルショックの影響などのため経営的にも苦しかった時期を抜け出した頃でありました。そうした中で、当社もまわりにおられる方々にもっと頼って情報を発信し、そして教えていただこうといった意図で発行をはじめたのがこのニュースレターです。

今後ともニュースレターを価値あるネットワーク媒体に育てあげていただきますよう、よろしく願いたします。

### アルパック ニュースレター もくじ

| 「50号記念号」                     |    |
|------------------------------|----|
| ・ニュースレター愛読者座談会 .....         | 2  |
| ・追跡！あの記事は今…… .....           | 7  |
| ポータウン21と宝島共和国                |    |
| ミニ独立国にカンバイ！                  |    |
| 人口第2位の市の特産品振興 その後            |    |
| 都市と川                         |    |
| 湖北長浜                         |    |
| 都市バス復権の試み                    |    |
| ・バックナンバーリスト .....            | 11 |
| ・新刊旧刊書評紹介「ニュースレターの活用法」 ..... | 24 |
| ・海よりでっかいうみがある。 .....         | 30 |
| ・我が国の国際化について思うこと .....       | 30 |
| ・ため池オアシスキャンペーン .....         | 31 |
| ・読者からのお便り .....              | 32 |
| ・まちかど .....                  | 34 |

NO.50

## ニュースレター愛読者座談会

去る9月7日、京都市内の私学会館で、3人の愛読者の方々をお招きして、アルバックニュースレターの座談会を開催しました。

地元で漬かってやってこられたのを踏まえたレポートが、感動させられる。(清水)

—— 本日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。熱心に読んでくださっている皆さんの率直なご意見やご指導をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。さっそくですが、ニュースレターの感想や、印象に残る記事などの御意見をいただけたらと思っております。

御船 ニュースレターの特色は、「自分の言葉で書かれている」ということにある気がするんです。私は手紙ということに大変関心を持っておりまして。手紙は基本的には一対一のものであり、たとえ2000部刷っておられても一対一というのが基本的な性格にあるというところが、ニュースレターの魅力ではないかと。

高橋 僕はアルバックに限らず、いろいろなところから頂いたのを綴じて見ておるんですけれど。ニュースレターを見ていますと、コンサルタントという業務ですから、世の中の動きというか、こういうプロジェクトがいろいろ出てるんだなあとか、時代が反映されたような仕事をしてらっしゃいますから、非常に興味を持っています。

特に、前号(編集局注:49号)の京都特集では、私も同じような考え方をしておったのが、たまたま会長さんが書いてらっしゃって、京都ってのは何かワーッと騒ぐんだけどどうも旗振ってるのは周りなのかなあと。そういうことでは非常に的を得た内容でした。

それからもう一つ、僕は日頃「コンサルタントは、手で書かないで足で書け」とか、あるいは「頭で考えず、腹で考えろ」とか、あるいは「Seederになれ、種を蒔け」とか言うんですけども、アルバックはやっぱりちゃんと現場を見ていらっしゃる。このニュースレターを読んでいると、そんなことが伺えます。会長さんが「仕掛け人になれ」とおっしゃってましたが、コンサルタントの役割というのはやっぱり種蒔きをするということが、非常に大事だろうと思います。

—— 改めて教訓にさせていただきたいと思えます。

三輪 書く内容は、業務報告では具合悪いんですね。業務期間中ですとこんなことやってるという事実すら言えない段階のものもありますよね。だから、むしろ仕事に引っかけているんな所に行った副産物に当たるような、そんなものを書こうと。今の時代、副産物のようなものが増えてきていますし、報告書にも書けないようなもって下世話的な話だとかがあって、それが面白い。

## 出席者（敬称略 五十音順）



清水 武彦（社）京都産業会館 専務理事

立命館大学産業社会学部 非常勤講師（地域活性化）

京都市在籍中、'65～'66年頃の計画局の洛西NT構想以来、京都駅南口や山科駅前・仁王門の再開発構想、山科醍醐盆地、羽束師工業団地等の新しい事業や、新用途地域指定等を通じてアルバックと関わりをもつ。また、清掃局では現在も続けているごみ分析調査、経済局で商店街の振興策等を担当し、アルバックに数々の発注と指導をしてこられた。



高橋 久栄（財）大阪府住宅管理センター 副参事

大阪府に勤務された昭和39年頃の泉北NT計画など、未だコンサルタントといったものが無い頃から、建築学会を窓口にして調査・研究や委員会を開催してきた。その後アルバックができて自称「コンサルのコンサル」として指導してこられ、特に企業局在籍時の昭和40年代初頭に、ポストニュータウンとして泉南地域のレクリエーション開発と一緒にさせていただいた。

ニュースレターは0号からファイルしていただいている。



御船 哲 住宅・都市整備公団 つくば開発局長

愛知県春日井市の高蔵寺NTの開発に長く携わってこられ、'85年多摩NTに移られた後、'91年現職。その間、アルバックの所員が度々事例調査させていただいたのがお付き合いの始まり。その後ニュースレターと感想の手紙のやりとりで、アルバックや編集局に毎号のように多大な励ましをいただき、今回編集局念願の初邂逅となった。

座談会当日はアルバックセミナーの講師もしていただいた。

アルバック : 三輪 泰司 ㈱地域計画・建築研究所 代表取締役会長

金井 萬造 ㈱地域計画・建築研究所 代表取締役社長

司会・進行 : ニュースレター編集局

清水 よく出来てると言いますか、よく書けるなあと思うのは、ずぼりと地元に漬かってやってこられたのを踏まえて書いておられるレポートというのが、感動させられることがありますし、非常に教えられることが多いです。

最近のベストとしては、尾関さんの35号の岐阜川島町のミニ博物館とか37号の宝島共和国。いわば小さい所の地域活性化の取組ですが、単なる紹介でなしに自分も参加してやっておられる。ああいうのはなかなか感動的で、また教えられることが多いなと思いました。京都の中の問題でも、44号の高橋さんの西新道商店街、あるいは山田泰三さんの46号ですか、丹波町の王国との付き合いの話ですとか。

また、私の仕事に関連があったのでは、当初からごみ問題を、特に役所の方でなかなか言えないことを（笑）書いていただいて喜んでいますが。

それから、表紙っていうのは非常に難しいんですが、私はこの表紙が大変良くできてるなあと思います。特に最近のものがそうですが、中の文章との関わりでパッとビジュアルにあるのがいい。

それと、やってられるお仕事の中には、実際に随分ドロドロとした側面が多いと思うんですね。住民の中の矛盾だとか。利権の問題とか。役所は頭が固くてどうにもならないとか（笑）。大変遠慮して書いておられる点もあると思うんですが、そういうことの苦労話も出てきてもいいんじゃないかと思います（笑）。今までの

中でも、随分耳の痛い、頭の痛い御指摘も時にはありましたけれど、もうちょっとあってもいいんじゃないかなと。商売に差し障りのない程度に（笑）。

「その後を考える」ことは、地域計画をする上で大きな仕事ではないか。（御船）

御船 「デザイン博その後」上・下ございますね（編集局注：40・41号）。これは実際デザイン博自体はアルバックがしたのではないんですが、仕事をした後をどう考えるかということ、大きく取り上げた記事という意味でも印象的でした。中身はもちろん共感するところが多かったです。

実際にアルバックがなさった仕事でも、そうでなくても、「その後を考える」ということは、これから地域計画をする上で大きな仕事ではないかと感じております。ニュースレターでも、アルバックが仕事された以外のテーマを取り上げるということ、を少しずつ入れていただくと、こういう分野のコミュニティペーパーに成り得る条件が出てくるのではないかという気がいたします。

高橋 大阪河内長野の花の文化園、あれは何回か載ってましたね。多過ぎるくらい（笑）（編集局注：37号表紙，44・49号）。でもやっぱりそれが大事だと思いますね。自分たちが計画してやった仕事の評価を確認する意味でその後どうなったか分からないというよりはね。

清水 大分前に糸乗さんが、シャーロックホームズの調査手法というのを書いてるんだけど（編集局注：28号）。実は私も日本シャーロックホームズクラブの会員ですが（笑）。探偵というのは帰納法なんですよね。殺人という結果が出てから犯人探しですから、後へ戻っていくわけです。先程の話のように、結果を追跡していただくというのは、大変重要やと思いますんで。事業をやっている方なんかでも、その結果というのはあまり見ない、怖いからかもしれません（笑）。やっぱり振り返って、再評価してということ、を是非続けていただきたいと思います。

高橋 京都の問題も、ずっと見ておくべきじゃないかなあという気がしています。ですから、特集もまた、3年後にもう1回やっていただくと（笑）。そういうふうに戻り返りやっていただいて、点検していくということが大事じゃないかなあという気がしますね。



ある程度は言いたいことをいうこと、議論を巻き起こす種を蒔くこと。(高橋)

— 話は変わりますが、最近、アルバックとしての立場や考え方を問われるような内容が増えてきているんです。従来通り私的なレターという立場を通すべきか、その辺りで御意見をいただければ。

高橋 僕はね、やっぱりニュースレターは個人の名前入りですからね。会長、社長さんはともかくとして、大いに言ったらいいんじゃないかと思います。

どうも歯切れの悪いところがありますね。将来見た時に歯切れの悪い裏の部分が大事なことがあるわけですね。例えば今、役所なんか情報公開とか言ってますけれどね、公開されない部分の方が非常に重要であるとかね(笑)。そういうことではやっぱり、コンサルタントとしては、ある程度言いたいことは言ってもいいんじゃないか、それが世の中の為になるんじゃないかと思うんです。

三輪 似たようなものでは、いわゆる仕掛けの話で、学研都市を仕掛けていった時に筑波はどうやったんやろと研究していったんです。確かに公式レポートはありますが、あれを何回読んでも経緯は分かりません。しかし、必ず最初に何か火花があって、なんかこう燃え上がっていくというのがあるはずやと、そこら辺を出すのが大事じゃないかなあと思うんですけど、公式記録には何もあらへん。

高橋 肝心のノウハウ、苦労話とか、成功や失敗談、そういう記録が大事な気がしますね。アルバックとしてもそれは大事なんじゃないですか(笑)。

金井 ものの考え方の一石を投じるべきなのに、投じないで黙っているということに対する不満とか、もう少し話題にしていくのがコンサルタントの責任じゃないかと、そういう御意見の方は相当出てきてるんです。

高橋 さきに会長が触れられていましたけれど、例えば京都の町を本当に保全するなら、防火地域ではコンクリートにしなきゃいけないとかいうような制度上の問題を見直しながら、もうちょっと視点を変えた提案みたいなことをしていいんじゃないかという気がするんですけどね。そういう議論を巻き起こすような種を蒔いていただきたいと言いますか…。読者にそういう場を提供して議論させてもいいんじゃないですか。

今後のニュースレター執筆者に望むこと。

— 普段言えないような苦言のほうも、今回この機会にお願いします。

御船 50号の企画の追跡調査に、計画業務に直接関わっておられない総務部の方々も参加しておられるそうで、大変すばらしいと思います。そういう方の参加も得て、文字・文章で表現することをもっともっと磨いていただきたいということは、切実に

感じることです。

清水 私の方から言いますと、先程も申しましたけれども、もっとどろどろした苦労話みたいなのも書いていただきたい。あんまりきれいにまとめることばかり考えなくて。どうでしょう。

中には何を言おうとしておられるのかよく判らないものもありますから（笑）まあ読む人には判るようにしていただきたいと思います（笑）。中にはですよ。たまには。

それから、編集技術の問題になってきますけれど、書き手が段々増えてきてそのぶん文章を短くせんならん。それに、特集っていうのをやると、いい点はあるんですけど、連載ものなんかしにくいですよね。1回で無理ならある程度回数重ねても、まとまったのを読ませていただきたいなあというものもありますので、それはやっぱり企画の中で入れておいていただいた方がいいんじゃないかなあと思うんですよね。

高橋 それは、特集と別枠でね。

御船 先程、高橋さんから「頭でなくて、腹で考えよ」というお話についての発言がありました。私も本当にその通りだと思います。岩波書店の『授業』という本で、「腹から発言を始めた途端に、非常に子どもの発言が重くなったのだ」という主旨のことを読みました。ニュースレターを書かれる所員の方が非常に重たいテーマを取り上げて、書きにくいけれどもとつとつと書かれるということは、多々あるんじゃないかと。滑らかに文章だけはうまいけども、内容があんまりないっていうのもあり得る（笑）。その辺は是非編集委員の方に内容でよく選択していただきたい。

三輪 ニュースレターは外部の方に向けたものとして始めたのですが、期せずして内部のコミュニケーションの為に大変いいんですね。それからもう一つは、これが双方向通信になっていったらと最初から考えておりました。ただ、それをどういう形で段々双方向へむけていくかということまでいってなかったわけですが、今日の座談会が双方向通信のきっかけになれば、と思っております。

—— 本日はどうもありがとうございました。

このように、終始なごやかなムードで、ニュースレター座談会は無事終了いたしました。

しかし、微笑みの陰には計画者としての鋭い目線が隠されていたのも事実。紙面に載せられなかった部分でも、沢山のご指摘やご指導をいただきました。もちろん、お褒めの言葉に一同ホッとする場面もありましたが。

今回出席していただいた方々に限らず、様々な方面からの励ましやお叱りを受けながら、

より一層精進して皆様に可愛がられる情報誌となることをめざして行きたいと思っております。



出席者の方々と編集局

## 追跡！あの記事は今……

入社まもない所員にとっては、ニューズレターが創刊された8年前に先輩がやっていた仕事のことなどは知らない世界の話です。そこで、入社1～2年程度の所員がチームを組んでバックナンバーの中で興味を惹かれた記

事の内容が現在どのようになっているのか、追跡調査をしてみました。現地の視察あり、関係者へのヒアリングあり、もちろん、記事の執筆者からのアドバイスもありました。

まずは、各チームの奮闘の成果をご覧ください。

ポータウン21と宝島共和国  
(名古屋) 福井(秀)・福井(守)  
田中・伊藤・岡崎・吉田

### ポータウン21と宝島共和国

私たちは本誌37号で尾関利勝が執筆した「やればできる手作りイベント」の追跡調査を行いました。

まず、記事を少しご紹介します。名古屋港の後背地に当たる築地地区は、港の機能や物流手段の変化に伴い、以前の賑わいを失ってしまいました。そこでまちの活性化のために、行政が先行的に地区総合整備事業に取り組み始めました。こうした中、地区住民・商業者が役所任せだけでなく自分たちでまちづくりを考え実行しようという意図のもと「ポータウン21」というまちづくりの会を結成しました。そして、名古屋港が会場の一つとなったデザイン博をまちづくりに生かすため、築地地区を宝島共和国と命名し、手作りイベントを行いました。その結果、無関心だった地元の方々の参加、やればできるという会員の自信、若手の活動家の発見といった成果を得ることができたということでした。

そこで、そのとき中心となって活躍されたポータウン21の副会長である佐野さんに、その後の状況を中心にお話を伺いました。

### イメージチェンジとアピール

佐野さんによると、このイベントには整備された道路や再開発事業、共同建替等により再生した街並みを市民の皆さんに見てもらうことによって、築地地区の暗いイメージを払拭し、新たなイメージを抱いてもらうという目的もあった様です。また築地地区では南北に通る幹線道路に沿って再開発事業、共同建替などの“点”がいくつか整備され、それがつながり“線”となってきましたが、さらに“面”になるために必要である港湾関係企業の倉庫や操車場の跡地利用計画に住民と行政と港湾関係企業が一体となって取り組むため、関係者にイベントを通してまちづくりの会をアピールすることも目的の一つでした。

それではその成果はどうだったのでしょうか。名古屋市内には築地地区の存在すら知らない方がまだまだいることも事実ですが、佐野さんはイベント後、多くの方から築地地区に良いイメージを持ったとの話を聞くようになったということなのでまずまずの成果が得られたのではないのでしょうか。

### コミュニケーションの強化

さて、2年前のデザイン博以降のポータウン21の活動ですが、宝島共和国の名を通じて、昨年名古屋港ガーデン埠頭で行われた南極観測船ふじオープン5周年記念行事「赤道まつり」の協賛イベントとしてパレード、宝

第2回宝島共和国イベントのチラシ

第2回 宝島フェスティバル 8月16日(木)午後2時~5時

築地ののガーデンを譲り、宝島に住る人たちに、お祭りのお待ちしています(南支那)

赤瀬まつりパレード

宝島共和国

宝島共和国憲章

1 国名のある町にします。  
2 住みたくある町にします。  
3 宝の島を目標にします。

TEL 641-1703  
主催/築地ポートタウン21地区の会、宝島フェスティバル実行委員会

れほどこだわる必要もないのではないかと考えているとのことです。今後ポートタウン21としては、名古屋港管理組合、市の築地地区総合整備事務所とのコミュニケーションの強化をはかるために定期的に懇談会を設けるなどして、築地地区を含めた名古屋港全体のまちづくりを考え、様々な提案をしていきたいとのことです。

島共和国憲章の発表、フォトコンテストを行い、今年はこの秋に行われる区民祭りでバザーを開く予定ということです。このように年々規模は小さくなりましたが継続してイベント活動を行っています。しかしイメージアップ、PRその他まちづくりに結びつく一応の成果を得た今となっては、まちづくりの手段としてイベントを開催するといった手法にそ

来年度の名古屋港水族館閉館をはじめさらに変わりつつある名古屋港を控えてどのようなまちづくりをしていくのか今後のポートタウン21の活動にさらに注目したいと思います。そして今回の取材でイベントを通じた地域の手によるまちづくりがその難しさも含めてどんな意味を持っているのか少しづつわかってきたことが大きな収穫だったと思います。

ミニ独立国にカンパイ!

(大阪) 坂井・竹野・中村

私達のグループでは本誌16号で藤田武彦氏(元所員)が執筆した「ミニ独立国バンザイ!」をとりあげました。ミニ独立国が'80年代の地域振興の目玉として世に登場し、一躍大ブームとなったことは記憶に新しいところですが、この記事では'86年に開催されたミニ独立国の万国博覧会について報告されています。

最近では耳にする機会も少なくなったミニ独立国ですが、はたして現在も存在するのでしょうか? どうしてあれほどまでブームになったのでしょうか? ミニ独立国の持つどこか楽しげな雰囲気好奇心をかられ、いくらかノスタルジックな気分も手伝って私達の追跡調査は始まりました。

ミニ独立国の登場

東北の一寒村が突如日本から分離独立を宣言!'82年に刊行された井上ひさしの小説「吉里吉里人」は、舞台となった岩手県大槌町の人々を小説どおりの「吉里吉里国」誕生へとかき立てました。それ以来、過疎化に悩む地方の村おこし策として、ミニ独立国ブームは全国に波及していきました。

ブームを乗り越えた独立国

もともと観光による地域振興を目的として始まったミニ独立国は、地方のみならず都市部にまで拡がり、地域の人々のコミュニティづくりを目指した都市型の国家も数多く生まれました。建国以来10年近く活動を続けている「そやんか合衆国」もその一つです。「そやんか合衆国」は、北浦浩氏を大統領として大阪市大正区の商店街で産声を上げました。当初は地域の人々の世代を越えた交流を目的に、盆踊りなどの地域に密着したイベントを



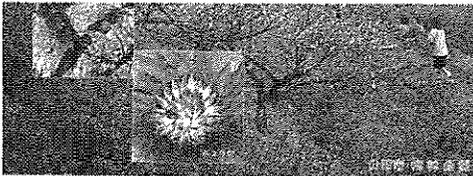
が、このプラム栽培による特産品の開発を通して、現在、地道な農業振興が試みられています。この特産品開発は婦人会などがヒット商品を作り出したり、他の地域の人々との交流を楽しんだり、地元の主婦たちにとっては生きがいとなっており、これをきっかけにして山田市は少しずつ活気を取り戻してきているようです。

### プラムを作って12年「坂田農園」

プラム栽培を12年間手掛けていらっしゃる坂田農園を訪ねてみました。ここのプラムは、市場で流通されていますが、その他に口コミによって、全く面識のない方からの注文もあり、日本全国に宅配されています。その年の天候によって、品質に大きな影響が出るのですが、送り先から「今年のは大変おいしかった」とか「そうでもなかった」という反響が常にあり、それが励みとなっているそうです。また、よりおいしいプラムを作るために、地元で組織されているプラム研究会で、研修会を企画し、今年は山梨県に視察に行かれたそうですが、新たな品種のプラムや栽培方法などの研究も行われています。

### 広がる特産品開発

特産品開発の主役は、このプラムなのですが、その他、力が入られているものに、杜仲（とちゅう）みそがあります。これは、手作りみそで、農協婦人部の方が班をつくり、2年程度前より研究が重ねられています。この



**会員募集** 問い合わせ **0948-52-1136**  
(受付時間 9:00~16:00)

山田市信用農業協同組合  
「ふる里宅配便係」

他、ぶどう、みょうが、ゆず、梅干しなどにそれぞれ部会を設け、新しい品種、加工の方法などの研究が続けられています。これらの特産品は、今年9月より、山田市のいろいろな情報とともに、ふる里宅配便によって会員の方へ年に数回宅配される予定です。（ただ今、会員を募集中。）

### 住み心地のよいまちをめざして

山田市の農業は、このように市民の地道な努力において、少しずつですが、着実に周辺地域にその名を広めていしつつあるようです。これらの努力が山田市の新しい顔を確実に形成している様子を感じました。

市役所の方の話によると、『地域の中でみんながやる気を出してきているのを強く感じている』とのこと。我々も、山田市の人々は山田市をとっても好きで、このまちを一所懸命に活気づけようとしている思いや姿勢を感じました。

山田市は、炭鉱で隆盛だったころのような活気とまではいかないにしても、人々の前向きな姿勢が人の住みやすい、そして住みたくなるまちへと変えていくことと期待しています。

### 山田市の皆さんと交流してみませんか 特産品と情報と真心を

お届けいたします

----- ご紹介 -----

山田市は福原県の炭産地区に位置する日本で二番目に小さい市です。

石炭産業と盛衰をともにした街ですが、石炭無き後は1万4千人の市民が心を新たに、知恵を出しあい、汗を流して心豊かな文化の香り高いまちづくりを目指しています。たとえ街は小さくとも、ダイヤモンドのようにキラッと輝く街でありたいと願っています。

特産品としては、農産物では巨峰、プラム、みょうが、杜仲ミソ、梅加工品、有機栽培による野菜類、工芸品としては三つの炭元より産出する陶器、手打の焙治による刃物類、竹細工などがあり、地方の香り漂う独特の物産品です。

宅配制度に加入していただければ、これらの産物と山田市の情報と文化の香りをお届けいたします。ぜひ御加入いただきますようお願い申し上げます。

\*\*\*\*\* 後 編 正 文



（「追跡！あの記事は今……」P29につづく）

## アルパックニュースレター バックナンバーリスト

0号から49号までのバックナンバーの表紙を紹介します。  
ニュースレター以前は、「リージョナルプランニング」「地域計画」という刊行物を出していました。



(0号以前の刊行物)

No. 0

1983年7月1日

### ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所

#### ニュース・レターの発刊にあたって

代表取締役社長  
三輪 泰 司

このニュース・レターは、ARPA・K—地域計画・建築研究所とその人間に興味をお持ちになっている方、ひとこと文句を云ってやろうと思っていられる方のための「受像機」です。はじめのうちはワウエイで雑多なニュースをうつし出しますが、そのうちリクエストもお受けし、取材にも走って現場のナマニュースも登場するでしょう。勿論、寄稿もお受けします。

ARPA・Kのことをシンク・タンク、コンサルタント、設計事務所何でも呼んで頂いて結構ですが、とにかくこの種の仕事は人と人とのふれあい、情報と情報の交流こそフロントシアがあると思っています。

ARPA・Kも出来て17年にもなりますと大阪・京都の事務所（これは業務も人事も一体的に活動しています。）に1976年に設立した九州事務所、ことし中部圏のご期待ののってきた名古屋事務所を加えると50名を数えるまでにになりました。

まづ内部のふれあいが第1と、1974年に所内報「地域計画」をつくり、昨年未にはC&R(Challenge & Response)という所内ミニ情報誌ができました。その中には、このニュース・レターのチャンネルにのせたいオリジナルな情報もあります。こゝに発刊記念号として、No.0をお届けいたします。

名古屋事務所創設を契機に始めますこのニュース・レターをユニークなネットワークに育てて頂きますようお願いいたします。

|                              |   |
|------------------------------|---|
| ○ ニュース・レターの発刊にあたって           | 1 |
| ○ 組織編成を交えました よろしくお願ひします      | 2 |
| も アルパックと京都                   | 3 |
| ○ コンサルタントの展望                 | 4 |
| く これから名古屋で                   | 5 |
| ○ きんきょう ○ 関西文化・学術・研究部市構想について | 6 |
| じ ○ 古寺をたずねて                  | 7 |
| ○ まちかど                       | 6 |
| ○ 一知半解 ○ 市町村予算は1人当たり20万円     | 8 |

No. 1

1983年9月1日

### ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所

#### ARPA・Kの教育研修と組織運営

代表取締役社長  
三輪 泰 司

7月1日、2日、須磨浦の兵庫インターナショナルセンターで1983年度の全所研修会を行いました。

去年の研修会は、統一テーマによる分科会で行いましたが、今年度の研修会は分科会方式を取りました。6月末とは、①前年度の業務が完了し新年度の受託業務がスタートする時期、②新入所員も3ヶ月の実務経験を積んで第一線に参加し新しい組織編成が始動する時期にあたります。従って調査、計画、設計の各分野での業務の総括、研究開発、技術開発および評価・反省を分科会で深く掘り下げる方法を取りました。

第1分科会は大規模プロジェクト、総合計画、特色ある地域づくり、第2分科会は市街地再開発、港湾、交通、ゴミ、観光、第3分科会は景観、防災、建築、住宅をテーマに九州事務所をふくめて8つの計画室の総括報告と23の典型業務報告をもとに議論しました。

分科会は第1日目の午後9時までの表でしたが午前1時まで熱中していたチームもありました。

研究・技術開発  
何といても対論の焦点は視点や方法は正

しかったか、どのような新しい提案や開発をしたか、といったことになりました。今回の研修会でもいくつかの興味深い新しい研究・技術開発が報告されました。

私たちの研究・技術開発は当然のことながら業態や組織の特性と深くかかわっています。すなわち①委託業務の調査や計画を遂行する作業の件で、委託者のご指導をうけ、あるいは共同の中で生まれる、②分科会のテーマに思われているように幅広い領域でチーム間の技術移転や共同の中で生れる、という特徴をもっています。

新しい研究開発・技術開発は別項でご紹介したり、あるいは別にパンフレットにしますが、例えば「狭域的住宅供給予測の方法」とでも呼べるもので近畿圏全域を16の地域区分（セクター）に設定し、「5年間人口世帯数推計」という方法を開発した下瀬論は「住み替え」という本来の住宅需要行動に替って注目されました。また「京都府女子高校全面移転事業計画」は空間造型としてみてもユニークなもので、移転を契機としての地域計画的な立地選定から、資金計画等が教養理念の具現化を軸に学園サイド、用地買収担当

|                     |   |
|---------------------|---|
| ○ ARPA・Kの教育研修と組織運営  | 1 |
| も きんきょう 「産業」と「農業」の間 | 3 |
| く まちかど ○ 磯浜、伊勢佐木町   | 4 |
| じ ○ まちのサインとC.I      | 5 |
| ○ 一知半解 ○ 自治体の脱税の経費  | 6 |

No. 2 1983年11月1日  
**ARPA・K NEWS LETTER** 地域計画・建築研究所



大学先行の都市辺り、1000年を偲ぶ現在の町並—ケンブリッジ—(本文6ページ)

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| ・職能論としてのプランナー・コンサルタント・コーディネーター | 2  |
| も きんきょう ○ヨーロッパの学研都市①           | 6  |
| く ○「和歌山下津港振興開発シンポジウム」の企画に参加して  | 8  |
| じ ○名古屋勤務とパチンコ                  | 9  |
| ・旧刊新刊書評 ○「若き故郷者のアメリカ」          | 10 |
| ・まちかど ○足のむきやすい店—福生駅前—          | 11 |
| ・一知半解 ○見直し議論が出だした水需要           | 12 |

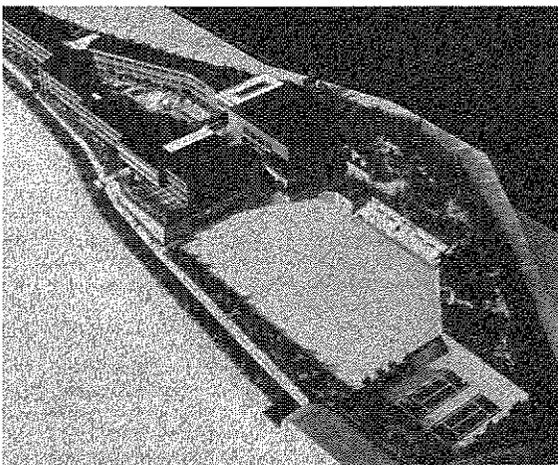
No. 3 1984年1月1日  
**ARPA・K NEWS LETTER** 地域計画・建築研究所



ベルギー—カープツ・ラ・ヌーブのサイエンス広場(本文8ページ)

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| ・あけましておめでとうございます                     | 2  |
| も 「人と車の共存道路」をヨーロッパに見る①               | 7  |
| く ○ヨーロッパの学研都市②                       | 9  |
| じ きんきょう ○あっと驚くハイボニカ農業—おいしいトマトは頭上になる— | 14 |
| ○「観光より健康—そして観光」                      |    |
| ○浜坂町「健康づくりの街」構想その後                   | 16 |
| ・一知半解 ○ごみはなぜ増えるか                     | 19 |
| ・まちかど ○水島防のサイン                       | 20 |

No. 4 1984年3月1日  
**ARPA・K NEWS LETTER** 地域計画・建築研究所



京都府女子高等学校 キャンパスプラン 00年春開校をめざし工事監理中

アルバック ニュースレター もくじ

|                              |   |
|------------------------------|---|
| ・ナポレオン、家根、そしてプランナー           | 2 |
| も きんきょう ○売れています、戸建てを越えたマンション | 3 |
| く 旧刊新刊書評 ○書評「電通」—職能論・再論—     | 4 |
| じ まちかど ○建築協定認可区域の機謙          | 5 |
| ・一知半解 ○家庭ごみの排出と高層調査          | 6 |

**NO. 4**

No. 5 1984年5月1日  
**ARPA・K NEWS LETTER** 地域計画・建築研究所



わたくしたちがお手伝いしてきた京都駅南口再開発ビル「アバンティエ」、6月にオープンしました。

アルバック ニュースレター もくじ

|                       |   |
|-----------------------|---|
| ・民間活力論の落とし穴—復利計算のこわさ— | 2 |
| も 産商研開発に取組む           | 4 |
| く 旧刊新刊書評 ○「地方の誇り」     | 6 |
| じ まちかど ○居住性の悪い公園      | 7 |
| ・一知半解 ○これはベンチではありません  | 8 |

**NO. 5**

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



暑中御見舞申しあげます

昭和59年 盛夏

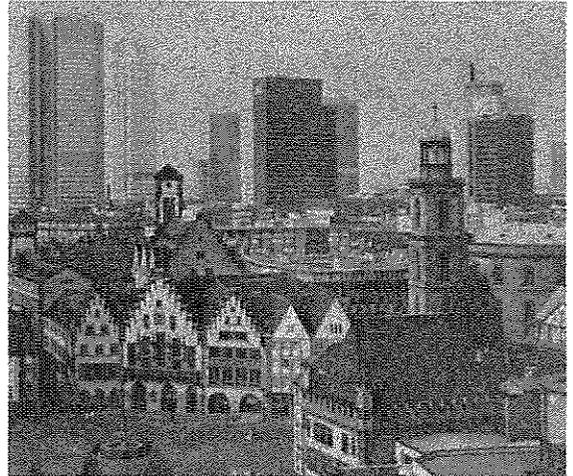
京都 夏の風物詩 鴨川の床

アルバック ニュースレター もくじ

- ・発見すること、確かめること —近況報告にかえて— ..... 2
- ・北海道 ARPA・K より ..... 3
- ・きんきょう
  - あんずと観光 —長野県更埭市
  - ブラジルの建築家はつらいよ!!!
- ・一知半解
  - おどろきな人口推計もおもしろい
- ・まちかど
  - きのこ工場の再生

NO. 6

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



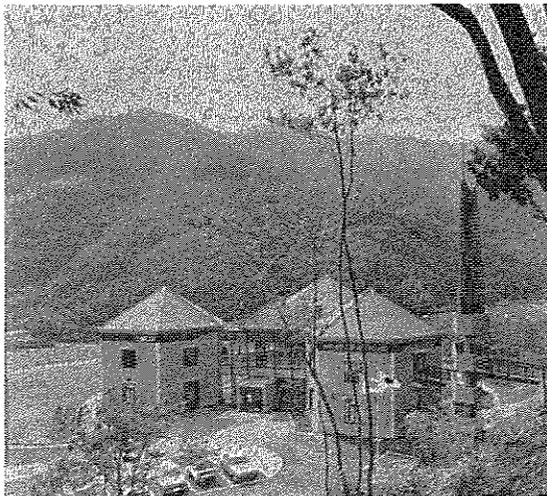
西ドイツの空の玄関でもあり、国際的な金融都市でもある  
フランクフルト・アム・マイン (本文4ページ)

アルバック ニュースレター もくじ

- ・街の町医者と営業..... 2
- ・ヨーロッパの都市づくり (その1) ..... 5
- ・まちかど
  - 福岡市地下鉄のシンボルマーク
  - 人口推計のはなし (その2)
- ・旧刊新刊書評
  - 「顔にガツンと一撃」

NO. 7

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



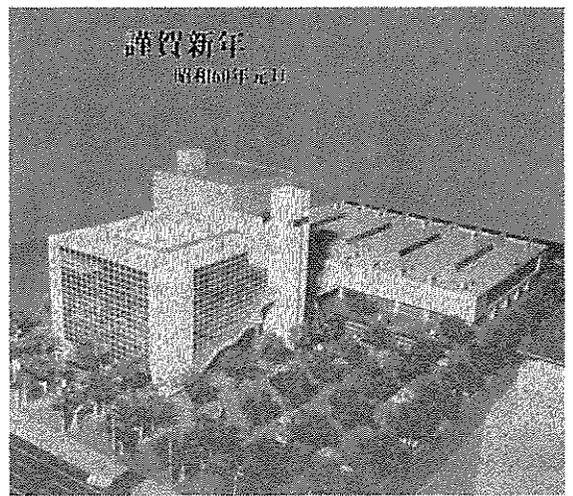
田園都市構想モデル事業「山口ふれあい館」(本文3ページ)

アルバック ニュースレター もくじ

- ・昭和59年一今年に完成した建築等施設建設事業 ..... 2
- ・過疎山村の人口構成が改変してくれるもの ..... 5
- ・ヨーロッパの都市づくり (その2) ..... 10
- ・旧刊新刊書評
  - 「業績の風景」
- ・一知半解
  - 海員 (シーメン) と海の玄関整備
- ・まちかど
  - ヴェスト・ポケットパーク 2 題

NO. 8

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



謹賀新年  
昭和60年元旦

国会見本市会館 (仮称) 完成模型【京都市】

アルバック ニュースレター もくじ

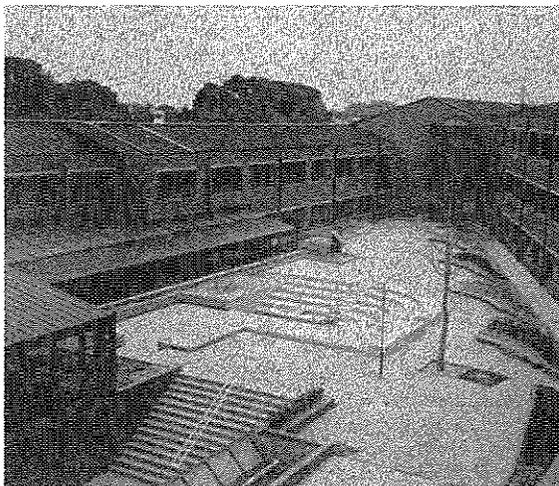
- ・アルバックのインベーションの年に ..... 2
- ・ごらめぐる本当の話 ..... 8
- ・きんきょう
  - 組織の扉をこえた人の輪 —僕友会—
  - 伏見酒蔵コンサートから
- ・旧刊新刊書評
  - 「本田宗一郎との100時間」
  - 「顔にガツンと一撃」
- ・まちかど1
  - 商店街の「いこいの空間」
- ・まちかど2
  - 高架下を明るくする

NO. 9

No.10

1985年3月1日

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



児童まがき 京都府女子高等学校校舎新築工事 中庭風景

アルバック ニュースレター もくじ

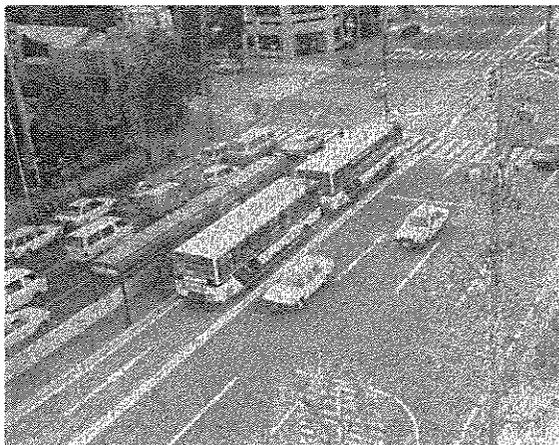
- ・小集団活性化のためのゲーミングシミュレーション  
仕事集団の活性化をどう考えるか.....2
- ・兼土からメルヘンチャイムまで  
一育での視、管理公社と協同組合.....6
- ・旧刊新刊書評 ○「マイコン・ウォーズ」一稿総論・再々論.....8
- ・(ニュースレビュー) ○選抜を変える日本の学生.....9
- ・まちかど ○どこにでもありそうな街角の景観整備.....10

NO. 10

No.11

1985年5月1日

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



名古屋事務所の前を、中央発行人方式の基幹バス「ミッキー」が走り始めました。

アルバック ニュースレター もくじ

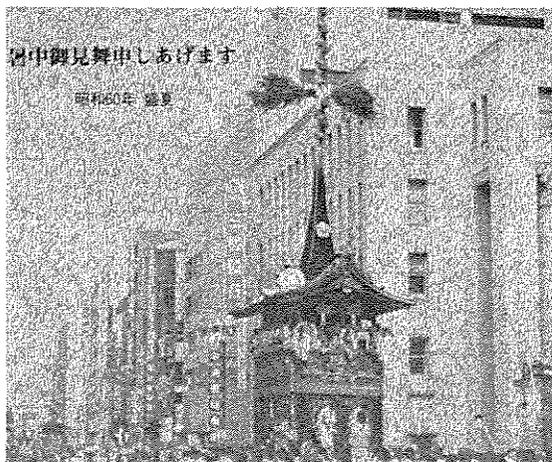
- ・地方都市臨海部利用と内発型産業おとし.....2
- ・全国でも珍しい地場産品を使った住宅創り.....5
- ・舞鶴産炭炭シンポジウムを終えて.....6
- ・一知半解 ○研究所の用水量とその原単位.....8
- ・まちかど ○新時代の新バスシステム.....10

NO. 11

No.12

1985年7月1日

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



街中観見舞申しあげます

昭和60年 盛夏

京都祇園祭山鉾巡行

アルバック ニュースレター もくじ

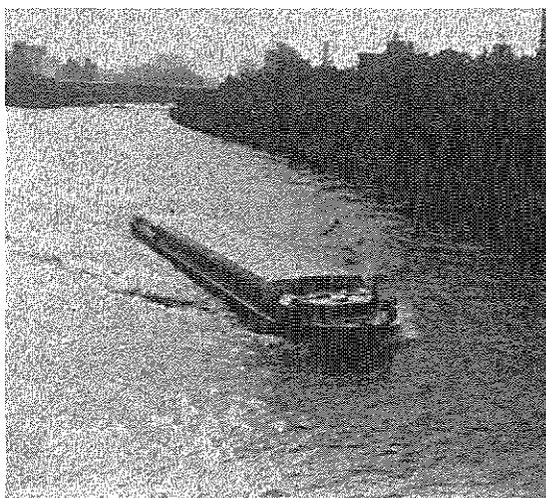
- ・駐車場づくりがなぜむずかしいか.....2
- ・ゴミプラと下水道設備.....7
- ・都市のイメージ：名古屋（その1）.....10
- ・交通計画の精緻化にむけて  
新都市と臨海部の交通計画事例より.....10
- ・まちかど ○階段おぼけのスーパー.....12

NO. 12

No.13

1985年9月1日

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



大原天満橋付近をゆくアクアライナー

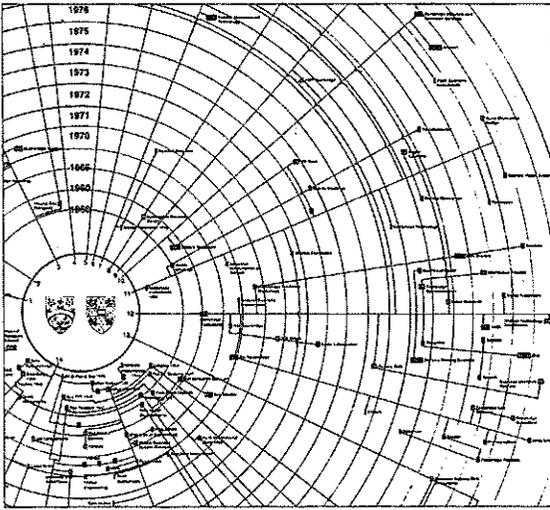
アルバック ニュースレター もくじ

- ・21世紀への道程 — 関西文化学術研究都市を創るひと.....2
- ・地場産業振興と技術シーズのパターン.....4
- ・旧刊新刊書評 ○「ドブコクをつくらう」.....8
- ・まちかど ○公衆トイレ命音.....12

NO. 13

# ARPA・K NEWS LETTER

地域計画・建築研究所



ケンブリッジ現象 (本文9ページ)

## アルバック ニュースレター もくじ

- ・21世紀への道程 — 関西文化学術研究都市を創るひとゆき ..... 2
- ・関西文化学術研究都市建設の現状と課題 ..... 4
- ・都市のイメージ：名古屋（その2） ..... 8
- ・ケンブリッジ現象 ..... 9
- ・まちかど ..... 10

No.14

# ARPA・K NEWS LETTER

地域計画・建築研究所



京都橋女子高等学校：第3回京都美観風致賞（建築部門）受賞（本文8ページ）

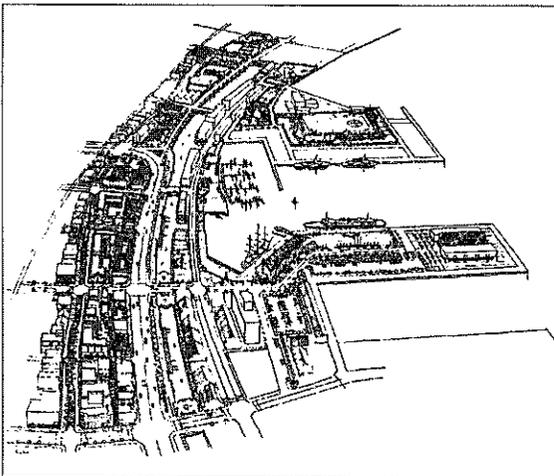
## アルバック ニュースレター もくじ

- ・あけましておめでとうございます ..... 2
- ・変わるものは安定して変わらぬものは変わりやすい ..... 3
- ・ARPA・K 20周年をむかえて、地域おこしの年に ..... 4
- ・まちおこしコーディネーター業の確立をめざして ..... 5
- ・幅広い交流を通して柔軟な発想ができる事務所に ..... 6
- ・旧刊新刊書評 ○「都市の時代」 ..... 7
- ・京都橋女子高等学校、京都美観風致賞受賞 ..... 8

No.15

# ARPA・K NEWS LETTER

地域計画・建築研究所



小樽色戸及び近河地区再開発ケーススタディー

## アルバック ニュースレター もくじ

- ・「その他のサービス業」からひとこと ..... 2
- ・「京都美観風致賞」の溯末 ..... 4
- ・ARPA・K-アルバック-地域計画・建築研究所 ..... 5
- ・新刊紹介 「市街地再開発事業のすすめ方」 ..... 5
- ・住民の望む公園や緑地 ..... 6
- ・ミニ独立国パンザイ ..... 8
- ・勝手必復団募集 ..... 9
- ・まちかど ..... 10

No.16

# ARPA・K NEWS LETTER

地域計画・建築研究所



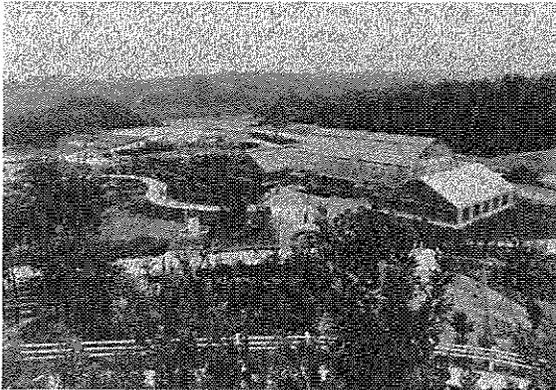
八尾空港—仁徳陵を繋ぐ一河内方面から石川を見て  
一応神楽を繋ぐ一八尾空港 写真は仁徳天皇陵の全景

## アルバック ニュースレター もくじ

- ・みんなで作った橋女子大学図書館—その1 ..... 2
- ・旧刊新刊書評 ○「港湾再開発の計画論および実証的研究」 ..... 7
- ・巨大古墳を空から見る会報末記 ..... 8
- ・内の配達センターから自然にできた市場 ..... 12
- ・まちかど ○クイズ 高瀬川のマンホール? ..... 14

No.17

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



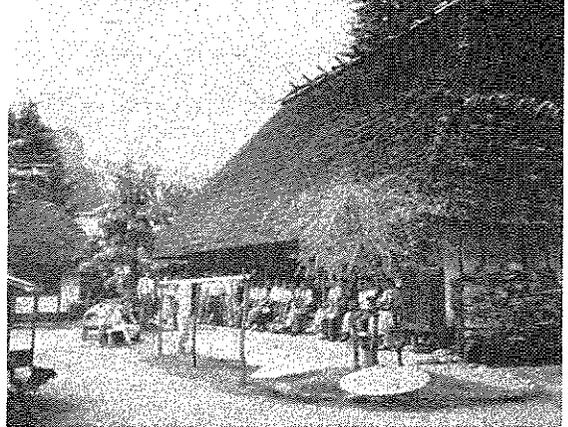
関西文化学術研究都市の最初の立地施設として、同志社大学とともに京都府花き総合指導センターがオープンしています。

アルバック ニュースレター もくじ

- ・みんなで作った橋女子大学図書館—その2 ..... 2
- ・きんきょう ○産業コーディネーターの復活をめざして ..... 4
- 5月、6月の東西往来 ..... 6
- ・一知半解 ○地場産業・観光関連施設の現状と集客力について ..... 8
- ・都市のイメージ(その3)木の都 名古屋 ..... 11
- ・まちかど ○ジャンボすべり台のある公園 ..... 12

NO.18

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



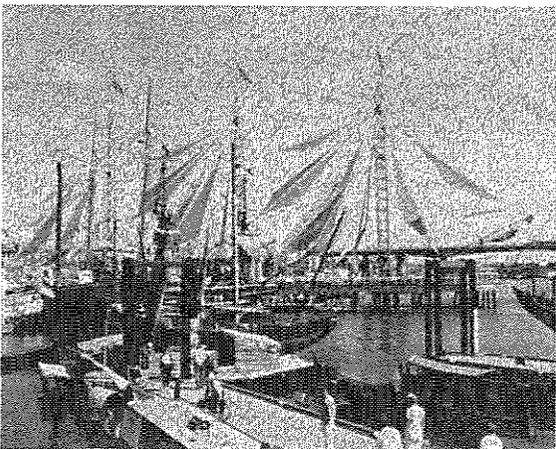
88° アルバック 昭和全所研修会 三州足跡 旅歴にて

アルバック ニュースレター もくじ

- ・一枚岩に映画をつつそう—古座川まちづくり物語 ..... 2
- ・工場遺跡“お菓子の城” ..... 6
- ・都市圏外部地区活性化の取組みに参加して ..... 8
- ・きんきょう ○アルバック・夏の陣—足跡・名古屋研修会 ..... 10
- 第9回全国町並みゼミに参加して ..... 11
- ・旧刊新刊書評 ○経「非まじめ」のすめ 千鶴子の発想 ..... 12
- ・まちかど ○歴史的町並みに調和した銀行2種 ..... 14

NO.19

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



クレーンも奪回つくり一夜(インターカー-交通博会場にて)

アルバック ニュースレター もくじ

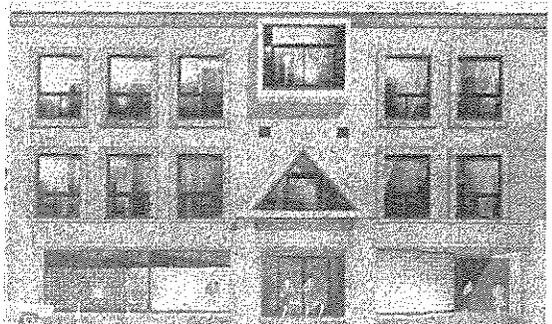
- ・地場産業としての観光 —その1— ..... 2
- ・旧刊新刊書評 ○「素直ながさき 都市景観の視点から」 ..... 6
- ・きんきょう ○温泉町リフレッシュ 経OPEN ..... 8
- ・交通博の対岸の水鉄砲 ..... 10
- ・清掃工場における余熱利用施設事例 ..... 14
- ・まちかど ○県道と町道の合併施行 ..... 16

NO.20

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所

謹賀新年

昭和62年元旦



関西文理情報会計専門学校竣工。本年4月開校予定。「T型からE型へ」2つの専門性を備えた人材の養成をめざす

アルバック ニュースレター もくじ

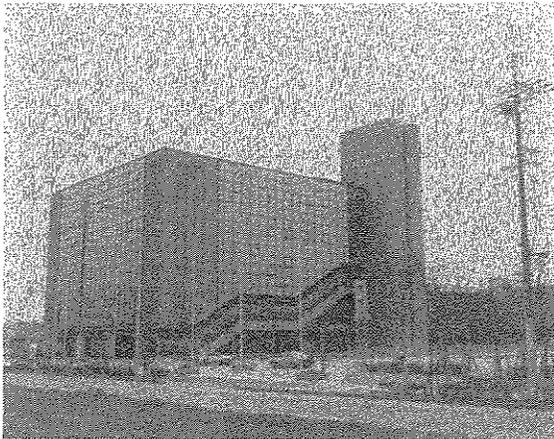
- ・あけましておめでとございます。 ..... 2
- ・きんきょう ○リゾート時代のハイセンスなセミナー ..... 4
- ・1987年へのキーワード ..... 5
- ・鹿児島市の産業観光 ..... 8
- ・ウォーターフロントの再生—ハーバーフロント地区 ..... 12
- ・地場産業としての観光—その2— ..... 15
- ・まちかど ..... ○古くて新しいまち豆田町 ..... 20

NO.21

No.22

1987年3月1日

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



京都府総合長本市会館「ハルスプラザ」が3月末に竣工します。

アルバック ニュースレター もくじ

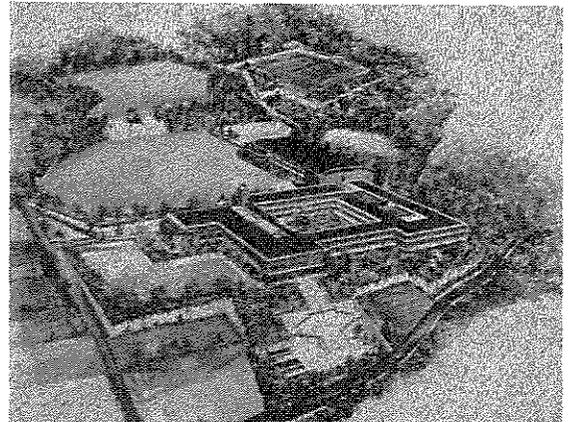
- ・瀬江子ども雪まつり-商店街のイベントおとし..... 2
- ・舞鶴港港交流調査団に参加して..... 5
- ・臨海部にある現代的ガスエネルギー館..... 8
- ・簡易地肥器導入などで収穫ごみを大幅削減..... 9
- ・まちかど 〇伝統的産業の再生と洋風建築..... 10

NO. 22

No. 23

1987年5月1日

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



63年の夏の竣工にむけて、立命館高校・中学校の移転新築工事が始まりました。(完成予想パース)

アルバック ニュースレター もくじ

- ・幼児に土と緑を 八幡野外保育センターの16年..... 2
- ・アルバック連続セミナー・田村明先生講演会から..... 4
- ・イベントで開山の街に活気づくり..... 8
- ・旧刊新刊書評 〇「山より大きい猪」..... 10
- ・まちかど 〇ちょっと気になる城下町..... 12

NO. 23

No.24

1987年7月1日

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



温泉町「リフレッシュパークゆむら」では、昨年のリフレッシュ館につづいて、4月に、震災風品がオープンしました。(兵庫県美方郡温泉町)

アルバック ニュースレター もくじ

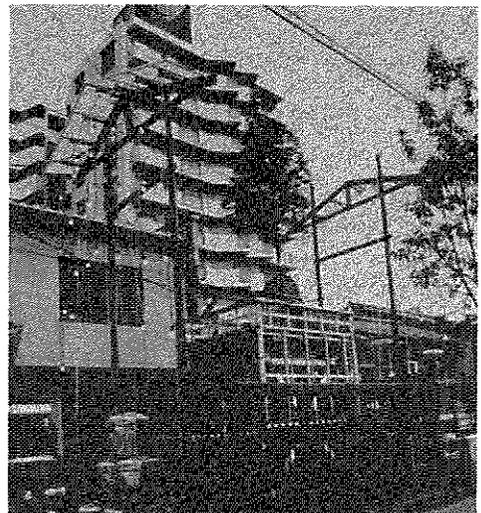
- ・やる気の計画づくり(試論)..... 2
- ・霧天風呂は森林事業で..... 5
- ・アルバック連続セミナー・月尾高男先生講演会から..... 6
- ・平安建部1200年記念事業、世界歴史都市会議とまちづくり..... 11
- ・食品系家庭ごみの発生構造の調査を行って..... 12
- ・旧刊新刊書評〇選読の裏取りとして読む読計画..... 15
- ・まちかど 〇洋風「枯山水」?..... 16

NO. 24

No.25

1987年9月1日

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



ビルの各階の延焼版、マンション住民にも参加を求める女子山町

アルバック ニュースレター もくじ

- ・山崎町と京都の都心..... 2
- ・動き出した湖北観光-北国街道C1作戦..... 4
- ・アルバック連続セミナー・勝沢厚先生講演会から..... 6
- ・きんきょう 霧天風呂のはしごでリフレッシュ..... 9
- ・事業系ごみ減量のために..... 10
- ・旧刊新刊書評「危機の幸相」..... 13
- ・まちかど 道路に見る日本のけじめ..... 16

NO. 25



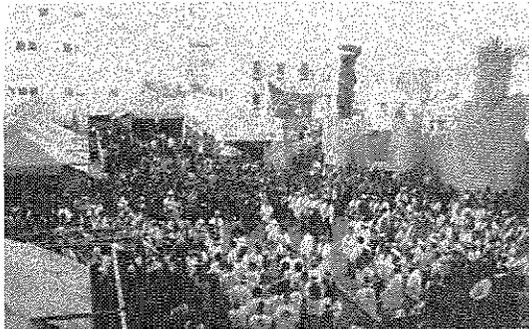
オーチャード通りの風景 (シンガポール) 車サービスは左側のみ一方通行。右側はゆったりした歩道と緑地をとっている。

アルバック ニュースレター もくじ

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| ・日本人ツアーはエグゼクティブ観光商品になっていない     | 2  |
| ・エネルギーと増額一韓旅行レポート              | 4  |
| ・きんきょう ○遠征四誌                   | 6  |
| ・アメリカ東海岸の諸都市における水辺と交通の再活性化について | 9  |
| ・きんきょう ○パソコン通信を始めます            | 12 |
| ○これまで習った「さいほし」                 | 12 |
| ○「安・近・抽」道                      | 13 |
| ・寄稿「遊びビジネス宣言」                  | 14 |
| ・まちかど ○結婚写真は植物園で               | 16 |

NO. 26

恭賀新春 昭和63年元旦

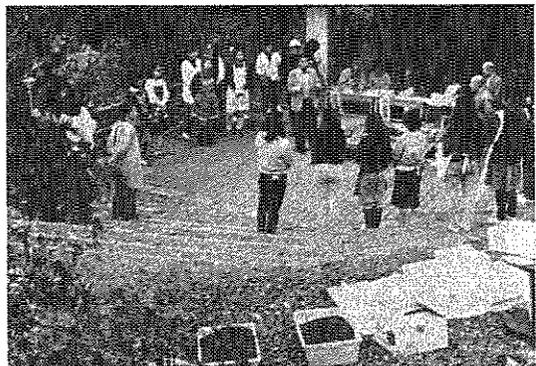


「伝統と新生」をテーマとする世界歴史都市博覧会が京都市総合見本市会館(ハルスプラザ)で開催されました。(87年11月)

アルバック ニュースレター もくじ

|                         |    |
|-------------------------|----|
| ・あけましておめでとうございます        | 2  |
| ・ネットワーク時代にむけて一人間から物産まで  | 5  |
| ・不自然と自然の間               | 7  |
| ・一泊宴会別荘光とまちづくり          | 8  |
| ・アルバック連続セミナー・矢野裕氏講演会から  | 10 |
| ・旧刊新刊寄稿「紋様に立つ都市再開発」     | 12 |
| ・きんきょう ○カヌーに赴いています      | 13 |
| ○旧況ですが、水害調査15年目の問合せ     | 13 |
| ○やはり吉原は空から見ると           | 13 |
| ・自慢のみやげ物、うまいもの通信①「湯原独楽」 | 14 |
| ・ネットワーク通信①「ため池の会」       | 15 |
| ・まちかど                   | 16 |

NO. 27



八潮野外学習センターの「第6回深草まつり」が行われました。写真は深草を使った福づくります。(昭和62年11月)

アルバック ニュースレター もくじ

|  |    |
|--|----|
| ・高麗は糸木の匠の姿である  | 2  |
| ・人口第2の市の特産品振興  | 4  |
| ・縁から園芸をめざして  | 5  |
| ・東京事務所を開校します   | 6  |
| ・アルバック連続セミナー「これからの市街地再開発」から  | 8  |
| ・きんきょう ○菜身——学生アパートが老人アパートへ ○文楽の楽隊裏探訪記 ○レンガ小僧と呼んで下さい ○「旧刊新刊寄稿」に対する著者からの返り ○底部の産 | 9  |
| ・旧刊新刊寄稿「毛毡」ミヒエル・エンダウ   | 12 |
| ・シャーロック・ホームズの調査方法論   | 13 |
| ・お便りをいただきありがとうございます  | 14 |
| ・まちかど サンフランシスコの土産店   | 16 |

NO. 28



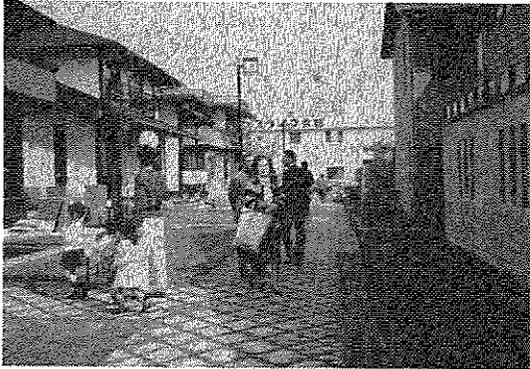
石造の型製に粘土をつめる作業 このあと1ヶ月間乾燥して、焼成をした。

アルバック ニュースレター もくじ

|                                    |    |
|------------------------------------|----|
| ・野焼きによってみんなで焼天狗の両版陸向をつくったまち        | 2  |
| ・20世紀から21世紀へ日本は何を伝承するか(1)          | 5  |
| ・関西学術研究会都市調査懇話会10周年                | 7  |
| ・中国東北方との貿易・交流の取組み                  | 7  |
| ・今夜、尚早、都府の夜はライトアップだ                | 8  |
| ・夜の惣店会からまちづくりへ                     | 9  |
| ・ネットワーク通信②「関西Qの会」                  | 9  |
| ・自慢のみやげ物、うまいもの通信② 「ジャンボイチゴはいかがですか」 | 10 |
| ・旧刊新刊寄稿「昭和村史話」                     | 11 |
| ・まちかど                              | 12 |

NO. 29

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



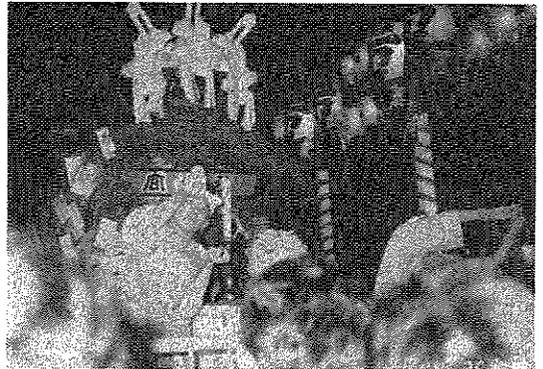
3月19日に京都市交差点ハウス・ハンズ・ギャラリーがオープンしました

アルバック ニュースレター もくじ

|                         |    |
|-------------------------|----|
| ・くらしの文化とすまいの産業          | 2  |
| ・日の丸のルーフ                | 4  |
| ・トリスタンとでんでん火袋           | 5  |
| ・新航空交通のユメ「ヘリシップ」        | 6  |
| ・20世紀から21世紀へ日本は何を伝承するか? | 8  |
| ・内巻了良と高瀬舟               | 9  |
| ・札幌テラノバークとエレクトロニクスセンター  | 10 |
| ・次川台まちづくり奮闘記            | 10 |
| ・新人紹介                   | 11 |
| ・ネットワーク通信④日本都市問題会議関西会展  | 14 |
| ・旧刊新刊書評紹介「ワープロ進歩入門」     | 15 |
| ・まちかど                   | 16 |

NO. 30

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



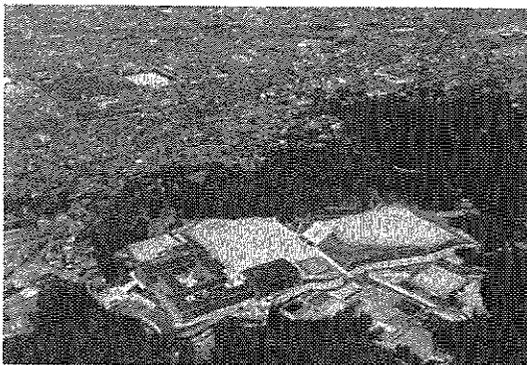
夏です。祭りの手始めです。大坂天神祭りの地車陣地おどり

アルバック ニュースレター もくじ

|                       |    |
|-----------------------|----|
| ・女科の博多浜御山笠            | 2  |
| ・大阪のまつり——天神さんと船渡御     | 4  |
| ・活性化への岐路に立つ着島         | 5  |
| ・浜りの雨後                | 7  |
| ・現代飯塚市産業「長崎産市」        | 7  |
| ・竜命館中学・高校移転新築         | 8  |
| ・お米屋さんはかわる            | 9  |
| ・新人紹介                 | 11 |
| ・うまいもの通信③からしめんたいのルーフ  | 13 |
| ・ネットワーク④コーヒー一杯の勉強会    | 14 |
| ・SAS名古屋               | 14 |
| ・旧刊新刊書評紹介「農家に縁がやってくる」 | 15 |
| ・まちかど                 | 16 |

NO. 31

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



立命館中学・高等学校移転新築の全景

アルバック ニュースレター もくじ

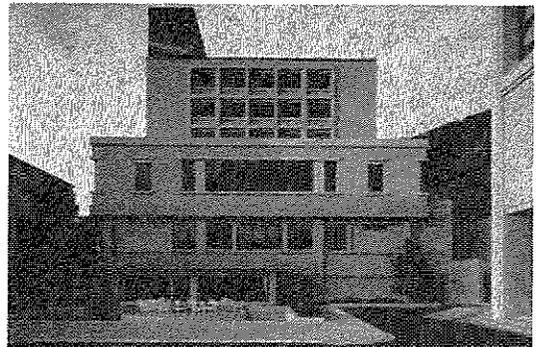
|                          |    |
|--------------------------|----|
| ・宇研都市10年—その1—            | 2  |
| ・技術と地方の自立(上)             | 3  |
| ・家庭からみたディスプレイ            | 3  |
| ・手野氏の会「SAS九州」ネットワーク通信③   | 6  |
| ・国際レジャー博のテーマって何          | 8  |
| ・「ブルーグラスフェスティバル」を楽しんでいます | 9  |
| ・複合的街づくりをみる              | 10 |
| ・東京芸術所開設パーティ             | 11 |
| ・新人紹介                    | 12 |
| ・うまいもの通信④神山のキノコ          | 13 |
| ・旧刊新刊書評紹介「リゾートビジネス」      | 14 |
| ・「地域計画への人間的視角」           | 15 |
| ・まちかど                    | 16 |

NO. 32

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所

迎春

1989年 元旦



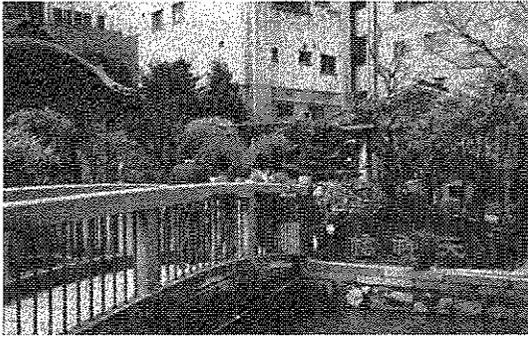
1988年10月竣工  
福女子大学学生会館(リパティホール)

アルバック ニュースレター もくじ

|                           |    |
|---------------------------|----|
| ・迎春1989年 今年もよろしくお慶びします    | 2  |
| ・宇研都市10年 奥田東先生と語る(その2)    | 5  |
| ・技術と地方の自立(下)              | 6  |
| ・おいしいはなし・食糧品店を築き始めた食事係    | 8  |
| ・長崎オランダ村の「秘密」             | 10 |
| ・上野の「まちの芸術館」              | 11 |
| ・京都新聞連載「新・都の魁(さきがけ)」      | 12 |
| ・一日体験入会                   | 12 |
| ・ネットワーク通信④どんぶり倶楽部         | 13 |
| ・新人紹介                     | 13 |
| ・新刊旧刊書評紹介「都市開発のターニングポイント」 | 15 |
| ・まちかど                     | 16 |

NO. 33

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



大阪事務所、界隈報告(その2)  
 ビルの谷間になった大坂天神さんの境内の南はもうちはじめました。早い春です。  
 池のほとりの雪被のようにみえるのは、明治期の天神様にかかっていたアーチ跡だ  
 そうです。

アルバック ニュースレター もくじ

- ・ 学研都市 10年 奥田東先生と語る(その3) ..... 2
- ・ 今、インテリジェントホスピタルが注目されている ..... 3
- ・ 寄稿 突線劇場とやま 高山原コロンパス計画 ..... 5
- ・ 太閤町跡のおもかげを挟す博多の建物 ..... 6
- ・ アルバックセミナー「都市文化とまちづくり」 ..... 7
- ・ 通線問題シンポジウム ..... 9
- ・ 名古屋事務所 スペース移動のご案内 ..... 10
- ・ 新刊旧刊書評紹介「小説となりのトトロ」 ..... 11
- ・ まちかど ..... 12

NO. 34

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



吉野の桜です。4月7日、8日と竹林庵に泊まって桜を満喫しました。  
 写真は、上千本、花矢倉という所からの桜です。

アルバック ニュースレター もくじ

- ・ 学研都市 10年 奥田東先生と語る(その4) ..... 2
- ・ 楽しい話  
 小さな町なりに深掘るコミュニティ活動 ..... 3
- ・ 列車C1をわらう「ゆふいんの森」-JR九州の試み- ..... 6
- ・ 「なぜ」を問う ..... 7
- ・ 江戸神楽と神明岡軒会 ..... 8
- ・ 新人紹介 ..... 9
- ・ 新刊旧刊書評紹介「小笠原宇宙と日本文化」 ..... 11
- ・ まちかど ..... 12

NO. 35

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



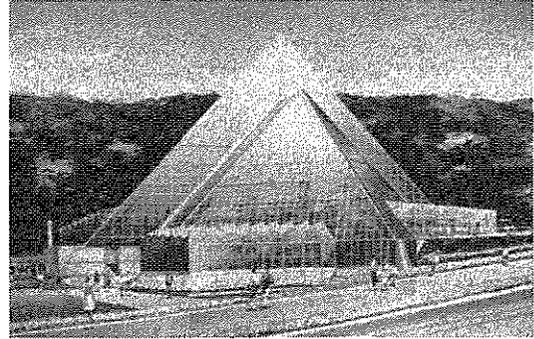
高月町・碧香の里の新しいコミュニケーションセンターです。  
 4月にオープンした「遊庵時庵」を紹介します。

アルバック ニュースレター もくじ

- ・ アルバック中期経営計画 ..... 2
- ・ いま大塚が丘周辺では ..... 3
- ・ 地域づくりのアイデアと計画 ..... 5
- ・ 香港・広州「環切り観光」「食べ物交流」 ..... 7
- ・ ソウルの日曜日と大学訪問 ..... 8
- ・ 高月町・碧香の里によつて ..... 9
- ・ 新人紹介 ..... 10
- ・ 新刊旧刊書評紹介「ババタギ」 ..... 11
- ・ まちかど ..... 12

NO. 36

ARPA・K NEWS LETTER 地域計画・建築研究所



(仮称)花の文化園(大阪府)が来年夏第1次オープンの予定です。  
 生活の中に花を生かすヒントがみつかります。

アルバック ニュースレター もくじ

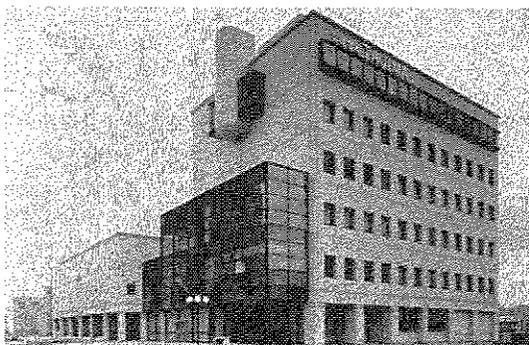
- ・ やればできる手作りイベント ..... 2
- ・ 丹波町町会 ..... 4
- ・ 新しい出発と情報交換 ..... 6
- ・ 新人紹介 京都事務所座談会 ..... 7
- ・ カラオケも貸切で楽しむ時代 ..... 8
- ・ 「研究学園都市セミナー」アルバック九州・セミナーの開催 ..... 9
- ・ 論文「地域計画の計画方法論に関する基礎的考察  
 及び実証的研究について」 ..... 10
- ・ 新刊旧刊書評紹介 ..... 11
- ・ まちかど ..... 12

NO. 37

№ 38

1989年11月1日

アルバック ニュースレター 地域計画・建築研究所



TAJ IMAJUBAばさんセンター・愛国記念館・豊岡商工会館所会館・今年4月開館致しました。

アルバック ニュースレター もくじ

- ・ 釜山開山から2年半 - 明延地区の再生始まる ..... 2
- ・ 長田野よりの報告 ..... 5
- ・ リゾート計画に思う ..... 7
- ・ 文化の仕掛人を訪ねて(その1) ..... 8
- ・ 人工カヌースタロムコース ..... 9
- ・ 新人紹介 ..... 10
- ・ 新刊旧刊書評紹介 ..... 11
- ・ まちかど ..... 12

NO. 38

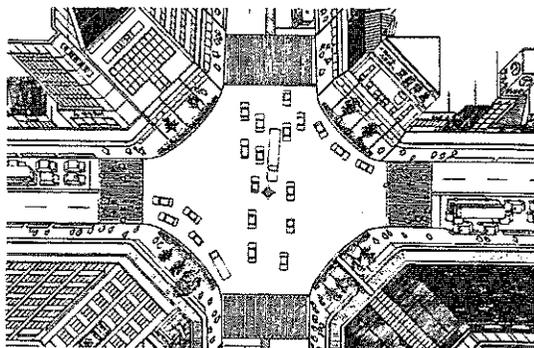
№ 39

1990年1月1日

アルバック ニュースレター 地域計画・建築研究所

迎春

平成2年元旦



移りかわる京都・四条河原町。ここが現在のような姿になったのは意外と新しい。「新・都の魅」が紹介しています

アルバック ニュースレター もくじ

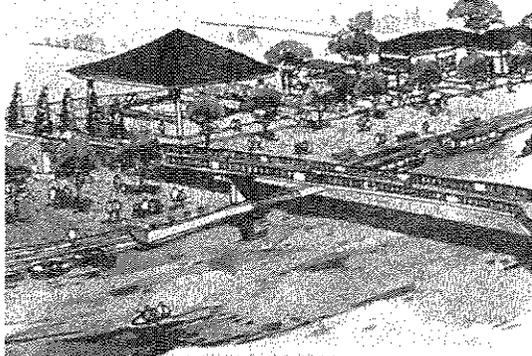
- ・ ありましておめでとうございます ..... 2
- ・ 妄想の博物館 ..... 5
- ・ 公園いろいろ ..... 8
- ・ '89年日米沿岸域セミナーについて ..... 10
- ・ 第13回全国町並みゼミの京都開催 ..... 10
- ・ 海外スキー・レポート ..... 11
- ・ "アイアンシティ"の転換 ..... 11
- ・ 国楽花と祥の博覧会と鶴見緑地 ..... 12
- ・ 新刊旧刊書評紹介
- 「新・都の魅」 ..... 14
- 「都市の魅力」 ..... 15
- ・ まちかど ..... 16

NO. 39

№ 40

1990年3月1日

アルバック ニュースレター 地域計画・建築研究所



伏見港をよみがえらせる事業がすすむつあります。(本文「伏見港物語」で紹介しています)

アルバック ニュースレター もくじ

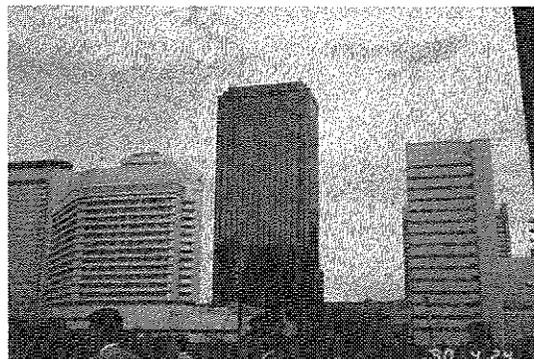
- ・ デザイン博・その後(上) ..... 2
- ・ 妄想の博物館(下) ..... 4
- ・ 伏見港物語 ..... 6
- ・ 大阪事務所OA化奮闘記 ..... 8
- ・ のり面開発の動き ..... 10
- ・ "Most Livable City"の意味するもの ..... 11
- ・ 園地(浜瀬と近江)談義から ..... 12
- ・ 新刊旧刊書評紹介 ..... 13
- ・ まちかど ..... 14

NO. 40

№ 41

1990年5月1日

アルバック ニュースレター 地域計画・建築研究所



大塚公園駅からみたOBP。左の白い建物はホテルニューオータキ、右の白い建物が大阪事務所のあるプラザビルです。

アルバック ニュースレター もくじ

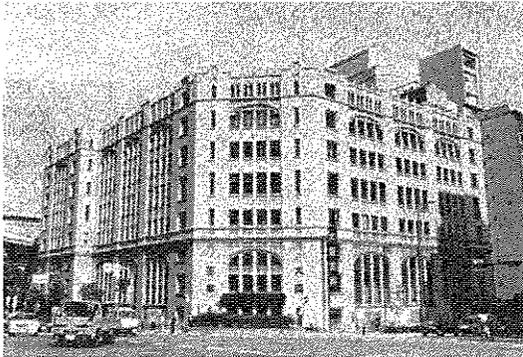
- ・ デザイン博・その後(下) ..... 2
- ・ 変わる「全国植樹祭」 ..... 4
- ・ 実方町(兵庫県)ふるさと運動の5年 ..... 6
- ・ 迷途に迷む「生涯学習のまち」 ..... 7
- ・ 活気のまちかど博多編 ..... 8
- ・ ネットワーク通信◎「方丈有線の会」 ..... 9
- ・ アルバックの大阪事務所は変わります ..... 10
- ・ 新刊旧刊書評紹介 ..... 11
- ・ まちかど ..... 12

NO. 41

No. 42

1990年7月1日

**アルバック ニュースレター** 地域計画・建築研究所



建て替えられる大蔵記復興ビル  
(本文「再生されるか都民の栄華」で紹介しています)

アルバック ニュースレター もくじ

特集「今、強心でおこっていること」など

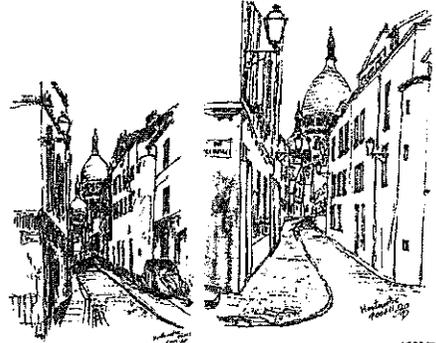
- ・再生されるか都民の栄華..... 2
- ・福岡の強心..... 3
- ・日本一小さい都市ガス会社..... 5
- ・大阪事務所移転てん末記..... 7
- ・きんきょう..... 8
- ・新刊旧刊書評紹介..... 11
- ・まちかど..... 12

NO. 42

No.43

1990年9月1日

**アルバック ニュースレター** 地域計画・建築研究所



1972年

1990年

18年間全くかわっていないパリ・モンマルトルの風景(スケッチ 三輪)

アルバック ニュースレター もくじ

特集「今、日本の外では……」

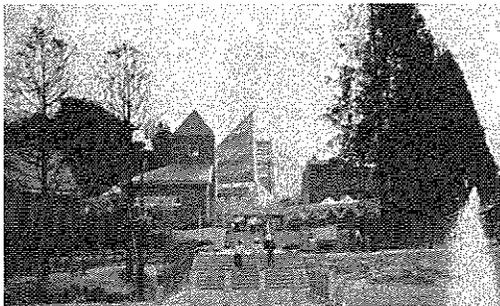
- ・菅段君の国際交流..... 2
- ・ロッテワールドに見る総合SCの行方..... 5
- ・欧州河川港都市の風景..... 8
- ・チェンマイを旅して..... 11
- ・第13回全国町並みゼミ 京都大会を終えて..... 13
- ・オートキャンプ体験記..... 13
- ・土木技術者女性の会について..... 14
- ・新刊旧刊書評紹介..... 15
- ・まちかど..... 16

NO. 43

No.44

1990年11月1日

**アルバック ニュースレター** 地域計画・建築研究所



大阪府立花の文化園 (イベント広場と大温習のビスタライン)

アルバック ニュースレター もくじ

特集「都市と田舎」

- ・都市と田舎をめぐる意識のカーニング・ポイント..... 2
- ・「むらおこし」と「まちおこし」が手を結ぶ..... 4
- ・西ドイツの農村セカンドハウス..... 6
- ・公営プールの管理あれこれ..... 8
- ・都市と田舎 —— 二題..... 10
- ・花の文化園がオープンしました..... 11
- ・第20回地域ゼミ「新たな飛行船の挑戦と可能性について」..... 12
- ・地方での演劇祭 —— 誰でもお芝居が好きになる演劇祭」に参加して..... 13
- ・まちを見直す —— 上町台地を巡るイベント..... 14
- ・新刊旧刊書評紹介..... 15
- ・まちかど..... 16

NO. 44

No.45

1991年1月1日

**アルバック ニュースレター** 地域計画・建築研究所

迎春

平成3年元旦



地中海風の酒造タリフレッシュ施設「バルキ・サルerte」

アルバック ニュースレター もくじ

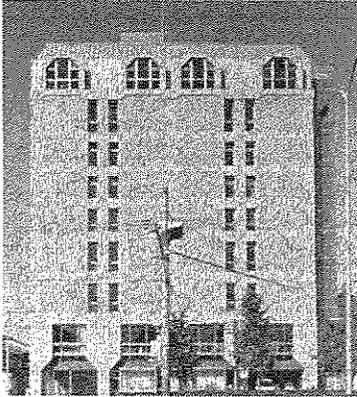
- ・あけましておめでとうございます..... 2
- 特集「健康について」
- ・バルキ・サルerteがオープンしました..... 5
- ・町の町医者とドゥー・タント・ネットワーク論..... 6
- ・嵐山練村のトライアル..... 8
- ・九州国独立!! 初代議員体験記..... 10
- ・年中行事になった半日ドック..... 11
- ・アルバックセミナー「生活のスタイルと健康問題について考える」..... 12
- ・うまいもの通信⑤・選別化によせて..... 14
- ・鹿児島の特産物..... 14
- ・新刊旧刊書評紹介「家庭に於ける実際の看護の秘訣」..... 15
- ・まちかど..... 16

NO. 45

No.46

1991年3月1日

アルパック ニュースレター 地域計画・建築研究所



久保商事本社ビル (本文中に関連記事があります)

アルパック ニュースレター もくじ

**特集 「ゆとり」の時代の中で**

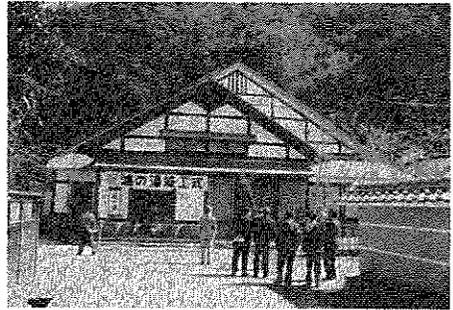
- ・生涯学習から生きがい学習へ……………2
- ・京都府立ゼミナールハウスの近況……………4
- ・今、病院はサバイバルの時代……………5
- ・競馬がトレンド……………7
- ・丹波町全住民の感動―新しい町歴史の創造に向かって……………9
- ・太平記の村・千早赤坂村C1作戦……………11
- ・京阪船関連の本社ビルを設計して……………12
- ・うまいもの通信①……………12
- ・みんなで四級小型船舶操縦士免許をとりました……………13
- ・一知半解……………14
- ・新刊旧刊書評紹介「とべ!おちこほれ馬「ミルクウエィ」……………15
- ・まちなかど……………16

**NO. 46**

No.47

1991年5月1日

アルパック ニュースレター 地域計画・建築研究所



新河の湯がオープンしました

アルパック ニュースレター もくじ

**特集 「すまい」を考える**

- ・都市圏住の再権をめぐって……………1
- ・「最低居住水準」を考える……………4
- ・炭坑住宅改良事業の新しい動き……………5
- ・住宅からみたまちの姿……………7
- ・一知半解……………9
- ・由良川との共生に光明を見出した大江町……………10
- ・上尾の共同建設事業から……………12
- ・引っ越しで感じたこと……………13
- ・越前温泉に新河の湯がオープンしました……………13
- ・「京節デザイン会議」に参加して……………15
- ・'91 ニュースフェース紹介……………16
- ・第2回日米沿岸域セミナーのお知らせ……………17
- ・うまいもの通信② 讃岐うどん……………18
- ・新刊旧刊書評紹介「住まい方の演出」……………19
- ・まちなかど……………20

**NO. 47**

No.48

1991年7月1日

アルパック ニュースレター 地域計画・建築研究所



さて、何の写真でしょう。「うまいもの通信」で紹介しています。

アルパック ニュースレター もくじ

**特集 「環境を甦らす」**

- 「花鳥風月」の時代の再来へ……………2
- こみ減塵をめざして……………3
- 市販自らの環境づくりへ……………6
- 都市居住の環境をめざして(後編)……………7
- 都市と緑、人との新たななかわり……………10
- 都市の物質循環からみた環境問題……………12
- 久御山町と幹線道路……………14
- 夜間のごみ回収―福岡市……………16
- 河内長野雑排水対策工場……………16
- 筑波研究学園都市の3つの研究交流施設……………17
- 第2回日米沿岸域セミナーが盛況に終わりました……………18
- うまいもの通信 番外編……………18
- 新刊旧刊書評紹介「都市にいつまで住めるか」……………19
- まちなかど……………20

**NO. 48**

No.49

1991年9月1日

アルパック ニュースレター 地域計画・建築研究所



中立的流通コミュニティ道徳被服パレード (本文中に関連記事があります)

アルパック ニュースレター もくじ

**特集 「京都から見た京都」**

- 京のまちづくり……………2
- 上京区「中立案区」のまちづくり……………4
- 京町家どうなる? どうする?……………5
- ポスト学習都市の構想……………7
- 宮津市・生気を取り戻した天橋立……………8
- うまいもの通信①……………10
- 「リゾート悪俗」論の中で……………12
- 花の文化園のバラ園が開園しました……………12
- 「大学と地域」シンポジウム……………13
- 新刊旧刊書評紹介「京都から京都へ」……………15
- まちなかど……………16

**NO. 49**

新刊旧刊書評紹介

## ニュースレターの活用法

アルバック ニュースレターは、今から約8年前の1983年7月1日、所員の手づくりの情報発信誌、ニュース性のある軽い読み物、まさに「ニュース」「レター」として、試験的意味も込めて「No. 0」として発刊しました。

以後、奇数月の1日発行を守りながら、今では発行部数約1,500部（特別な号は2,000部）、その内1,000部程度を読者の方々に毎号お届けしています。

基本的には、表紙、よみもの、きんきょう、うまいもの通信、一知半解、新刊旧刊書評紹介、まちかど等で編集してきました。

近年、No. 42(1991年7月1日)からは特集テーマも設け、また書き手としては比較的若手が多い状況です。内部事情で勝手ですが文章作成トレーニングの機会も兼ねており、ご理解をお願いいたします。

表紙の写真や図は、できるだけ本文に関連するものをとりあげてきましたが、デザイン等の変遷をふりかえてみますと、タイトルは当初白黒アルファベットでスタートし、No. 9以後は青色地に白ぬきに、No. 35以後はカタカナにしています。

あくまでも「レター」ですので、読者の方々からのご返事をお待ちしています。

バックナンバーは、在庫が少々ある号もあり、在庫の無い号はコピーを用意いたしますので、ご希望の方は編集局までご一報ください。

(編集局より)

ヒューマンなネットワークに役だった  
ニュースレター

山田 龍雄

昭和59年の10月に(株)九州地域計画研究所として独立した折りに、今までおつき合いがあった方々を①捜す、②追いかける、③合って話をするの3段階方式を目標に、所員それぞれが役割分担をし、行動しました。この時に3段階方式の③の「合って話をする」といっても、“きっかけ”がいるし、また“おみやげ”もいるということになり、今まで発行していたアルバック・ニュース（たしかNo. 1～No. 10までぐらい）を分野毎に整理しなおし、関係の方々へ郵送あるいは持っていったことを覚えています。

最近では、ニュースの分野毎の整理などはありませんが、事務所主催で2カ月に1回程度開催する「地域ゼミ」に参加して頂いた方々には配布し、街づくりの情報提供とアルバックのPRをさせていただいています。

これからは、PRの手段という意味もありますが、本当にニュースをもらって喜んでもらえる人を見つけること、あるいは「あの記事は面白かったよ」と気軽に声をかけてくれるような人と出会うことの方が大切のように思います。

そのためには日頃から、どういうことに興味を抱いている人なのかぐらいを分かり会える人づきあいがあるのかも知れません。

(九州事務所 やまだ たつお)

(P10より「追跡!あの記事は今……」つづき)

「都市と川」

—鴨川の床にみる人と川のつながり—  
(大阪)伊東・若林・東島・松本

私達の調査は、本誌6号の表紙「京都鴨川の床」の写真からヒントを得て、都心を流れる川のあり方について調べることにしました。調査の動機は、床に代表される鴨川の使われ方と、我々の仕事場(OBP)の近くを流れている寝屋川の使われ方とは、ずいぶん違うのではないかという印象を持ったことです。

鴨川の床は、京都の夏の風物詩となっていますが、そもそも、鴨川そのものが、夏だけでなく、四季を通じて多くの人々で賑わっています。一方、寝屋川の護岸には、プロムナードなどがきれいに整備されているにもかかわらず、我々自身ほとんどそこに出かけて食事や休憩をすることはありません。この違いは、床のような施設のあるなしといったことだけではなさそうです。

そこで私達は、さっそく床にでかけていき、京都の街なみ整備などを永年手がけている先輩所員に話を聞いてみることにしました。

床で、食ったり(飲んだり)しながら気がついたことは、鴨川は、人との距離が物理的にではなく、心理的に近いということでした。そして、そのように感じる事ができたのは、川の水がきれいであるからだという結論に達しました。寝屋川が鴨川に比較して川が遠く

感じられ、親しみが感じられないのは、水が汚れているからではないでしょうか。

水がきれいであることと、人が川に近づいていくことは、一方が一方の結果ではなく、互いに補完しあった結果です。つまり、人間が普段から川に近づいていると、その汚れにも敏感になり、それが川を汚さないという方向に働きます。

太古から人間と川との生態系は、人間活動にともなう、様々な汚濁物(栄養分でもある)を溶かし込んだ水が川に流れ込み、それを魚が食らい、その魚を人間や鳥が食らい、鳥の糞が地上に落ちて植物の栄養分となり、……といった具合です。また、人間は人工的に川底の泥を地上に上げて、肥料としてきました。川の掃除や川を汚さないための取り組みは、地球規模の環境問題が、やかましく言われたからといって、行われるものではなく、川が生活の中に入ってきているからこそ出来るものだと思います。

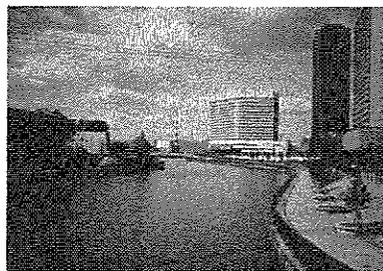
床で話を聞いたなかで、示唆的だったのは、「町並み保全とは、一つの建物を保存することではなく、生活の場と歴史的な町並みをどう調和させていくのかを考えることだ」ということでした。都市における川の整備も町並み保全と同じことではないでしょうか。

今、さかんに行われているウォーターフロント、リバーフロントにおける親水整備は、それ自体の整備内容がどんなに優れていても、肝心の「水」が汚れていては、効果半減です。

鴨川の床は、あるべき人間と川の付き合い方の一つの典型だと思います。鴨川の床を通して、今一度、自然と人間のつきあい方を考え直してみてもどうでしょうか。



床と鴨川



OBPと寝屋川

湖北長浜  
—北国街道をたずねて—  
(京都) 松木・中嶋・吉岡・芳賀・三木

本誌23号「ちょっと気になる城下町」、25号「動きだした湖北観光」において長浜の記事がとりあげられていました。そこで、今回の目的は「北国街道」の統一ロゴマークがその後どのようにまちづくりに生かされ、楽しみのもてるまちとしてどのような仕掛けがされているのか。そのような気持ちでいざ長浜に向けて出発しました。

「追跡！北国街道C1作戦」の企画にあたって

北国街道はかつて、中山道と北陸を結んだ重要な道でした。したがって、表題のように街道名を前面に打ち出した観光事業では、近代流通産業が進展していくなかで埋もれてしまっているかつての街道あるいは沿道の昔あった姿・かたちを、再現していくのだろうと考えがちです。しかし、この度の「北国街道」を使った事業の意図するところは、そのような整備ではなく、湖北地域の活動に根ざしたまちづくりとしての方向を明らかにする「リード・イメージ」としてのものです。

昭和の末期に湖北の観光振興協議会が観光イメージを明確にし、また統一するという目的のもとにCI企画をたてました。具体的に

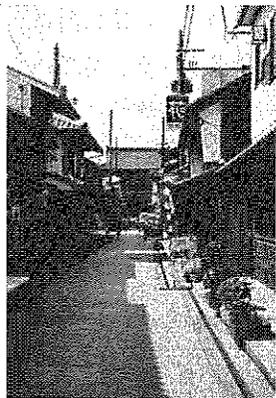
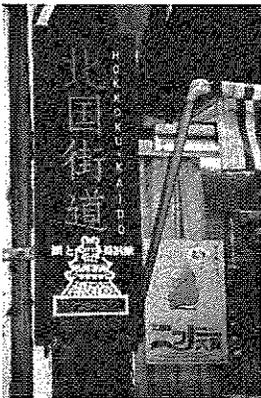
は、湖北の地域イメージをアピールするために「北国街道」という文字を統一ロゴとし、各市町をイメージしたマークを作りました。このロゴマークを各観光関係団体がパンフレットなどに記してアピールしています。

そして、湖北地域に係わる事柄をあげたのですが、「この道が北国街道なのだ！」という明示は、湖北全体のマップの上ではあえて避けているのです。

長浜旧市街地を歩いてみた

かつては、豊臣秀吉がひらいた楽市楽座によって商業の街としてひらけ、武将や商人達のはげしく通い合ったであろう北国街道には、今でも昔のままの船板塀、白壁土蔵、ガス灯、紅殻格子の美しい商家が所々に残っています。しかし、駅前大通りと比べると北国街道は、商業の地でありながら人通りが少なく活気がありません。昔の町家が建ち並んでいるかと思えばその前には派手な看板があったり、打ち放しの建物が現れたりしているのが原因の様な気がします。

このことは町並み全体だけではなく、イメージ戦略の1つであるロゴマークについても表れています。市の観光協会が推している統一ロゴマークが、市内のどの場所にどのように使われているかを探ってみました。まず、表玄関である長浜駅の待合室の中のパネル、市内数カ所の観光案内図、商店街に張られて



いる「長浜市」のポスター、北国街道の街灯、高速道路の表示、旅館協同組合で作られた貸出用の傘、そして旧長浜駅舎の案内図に見られました。しかし、これらの標示物自体が町の

中にそう多くあるものではなく、その結果ロゴマークも「探さなければ見つからない」というのが現状でした。

北国街道沿いのあるお店の「のぼり」の中に「北国街道」の文字を見つけることができたのですが、観光協会のロゴマークとは字体が違いました。「この字体は、店の創業以来使っています。市のロゴマークは知っていますが、最近できたものでしょう？」と店員さんが言っておられました。観光協会のロゴマークを知っていてもわざわざ変更する気はないということでしょう。

また、この北国街道を中心としてつくられている旅館・飲食店組合のロゴマークもありました。このマークは、各店舗の店先に置いてあるガイドマップやのれんに使われており通りを歩いていると自然に目に飛び込んできます。むしろこちらのマークの方が印象強く残っていますし、市民・観光客にも溶け込みやすいのではないかと思います。観光協会で作られたロゴマークによるイメージ戦略も商店街及び住民との連携を強くすることで、浸透していくのではないのでしょうか。

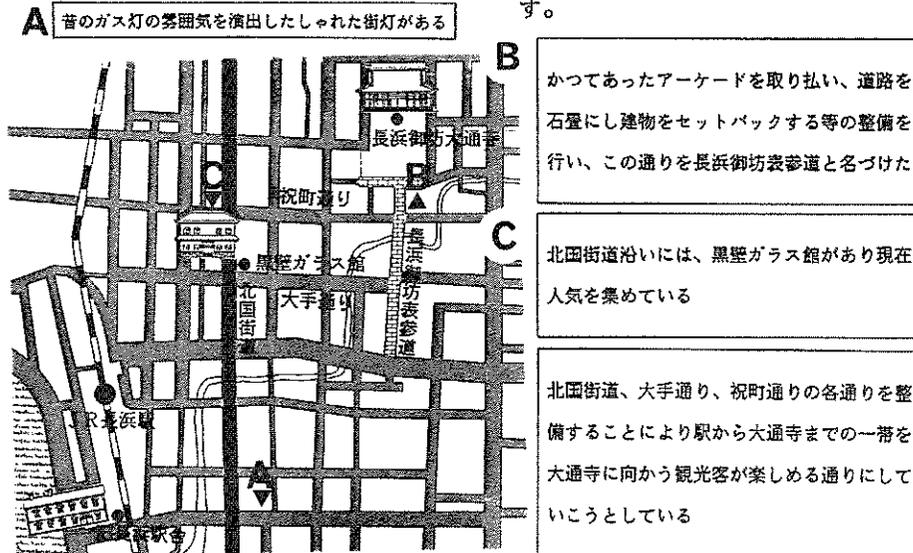
長浜市では旧市街地の活性化事業として動き出していた

現在の長浜市では東部に長浜楽市等の大型店舗、西部の湖岸沿いにはホテル、ヨットハーバー等のリゾート施設が開発されており、人を集め発展しています。しかし、昔からの商業地であった長浜駅から大通寺にかけては、前述した状況であり、町としては魅力が薄く、活気を失いつつありました。そのような中、地元の人達から「このままではいけない」という声がありました。そこで、商業に観光をぶつけることで、商業観光というものを生み出し、この一帯の活性化をはかろうとしはじめました。

現在、下図で示すような整備がすすめられています。それらが完成すれば、観光客が通ってみたくなる道になるでしょう。

まとめ

長浜旧市街地にみられる面的な整備が街道沿いの店舗に活気をつけ、地域全体が盛り上がっていくのではないだろうかと思えます。こうした一連の整備がきっかけとなって、湖北地域が北国街道を通じて経済効果をもたらすような観光、産業が発展することを願います。



都市バス復権の試み  
—名古屋市の基幹バス—  
(京都) 前田・高橋・中井・今村・榎田

はじめに

6年前名古屋市に全国初の中央走行方式の基幹バスが登場しました。本誌11号で内村雄二(当時名古屋事務所)は「まちかど新時代の新バスシステム」と題して、運行システムの概要、乗客サービスの改善、道路への影響や効果を紹介しています。バスは都市における近距離公共交通として必要な存在ですが、自家用車の増加により速度が低下し定時性が確保できず利用者が減少しています。こうした状況の中、名古屋市で実施された基幹バスは都市バス復権の試みとして注目を集めました。そこで今回は、基幹バス実施の背景、効果、現状を調査し、都市における近距離公共交通について考えてみたいと思います。

#### 基幹バスの登場

名古屋市は区画整理が順調に進み、他都市に較べて広幅員道路の多い自動車対応型の都市構造をもっています。一方、鉄道とバスで構成される公共交通は供給率が低い上に中間的な公共交通がなくマス・トラフィック・プア・ゾーンが発生しています。こうした交通体系の隙間を埋め、都市構造の特徴を活かした交通システムとして考案されたのが中央走行方式の基幹バスです。



基幹バスは1979年名古屋市総合交通研究会で8路線が提案され、そのうち東郊線(路肩走行)と新出来町線(中央走行)がモデル路線として1983年と1985年に運行を開始しました。中央走行方式は交通規制や道路管理上問題が多く、運輸、建設、警察の各省庁との調整が必要でしたが、都市バスの再生、道路交通の整流化、自動車総量の抑制などの点から協力が得られました。また、既存バス路線の再編、停留所の統廃合などについても数十回の地元説明会の結果、市民的なコンセンサスも得られました。

#### 基幹バスの特色

基幹バスは地下鉄の代替機関として位置づけられ、地下鉄の機能に近づけるための工夫がなされており、定時性、高速性確保を目的とした中央走行方式、一般路線バスとの乗継ぎ割引運賃、ロケーション・システム、駐車場を併設したターミナル整備、車両の改善などが行われています。運行は市バスと名鉄バスの共同で、運賃は共通です。技術的には従来のバス技術の応用ですが、高速、定時、高頻度運転・大型車両による大量輸送・整備費用が2~3億円/kmと安く(地下鉄の約1/100)、建設期間が短い・需要の変動に対応し他システムへの移行が容易・自動車交通の抑制と公共交通への転換の可能性、などの利点があります。

#### 基幹バスの効果と現状

表定速度は、新出来町線で実施前の14.55 km/hが実施後には19.93 km/h(市バス)と約37%向上しました。所要時間が短縮した結果、利用客数も伸び、1986年2月には32,440人/日(市バス+名鉄バス)と実施前の126%に増加し、市バス全体の利用者数減少にも歯止めがかかりました。また基幹バス路線では営業係数が東郊線で117(1983年)から69(19

89年)に、新出来町線で87(1985年)から77(1989年)になり、経営改善にも効果が現れています。懸念された一般交通への影響も当初接触事故が発生した程度で大きな混乱もなく、期待に近い効果が上がっているようです。  
**基幹バスの評価**

市のアンケートによれば、利用者は車両、ロケーション・システム、停留所デザインなどの点で満足し、区間による運行密度の差に不満を持っているが、全体として基幹バスに対する評価は高く、路線拡張の要望もでてきます。実際に乗車してみると、路線がわかりやすく、走行速度が速いなど従来の路線バスのイメージが払拭されています。また徐行、急停車などがなく、走行は安定していますが、優先レーンの屈曲による乗り心地の面で不快感や道路中央の停留所では不安感などが感じられました。

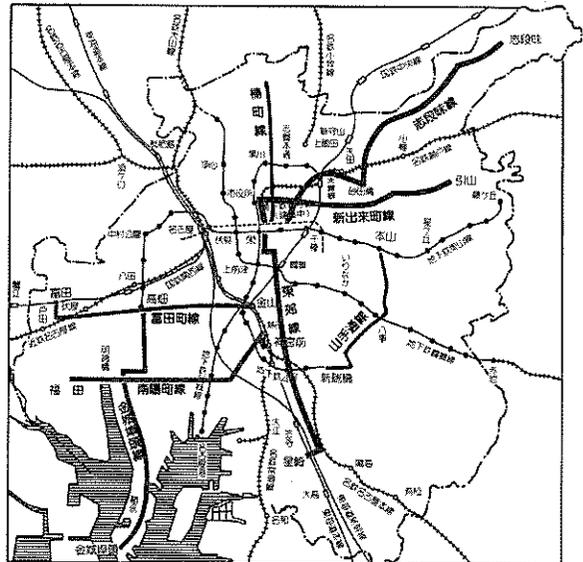
今後の基幹バス—都市内交通の将来—

このように基幹バスは名古屋の都市的特性を十分に活かし成功を取っており、市では路線整備を進める方向ですが、名古屋市全体の交通体系施策との関わりの中で実現にはまだ時間がかかるようです。一方、構想中の志段味ヒューマン・サイエンス・パークに中央分離帯上の高架専用走行路を走るガイドウェイ・バス・システムの導入が予定されています。これは鉄道とバスの

中間的交通機関で高速走行、安い建設費、狭い道路での実施が可能などの利点があります。

このように都市の交通需要に対応した新しい交通システムが導入され、それぞれの交通機関の安全性、利便性や快適性は高められてきていますが、利用者にとっては乗り換えなどの交通機関の質の連続性が一番の問題だと思われま。車両の改善、速度の向上や情報化だけでなく、連続性を妨げる大小の障害を1つ1つ取り除き、誰もが安全、快適に利用できるようにすることが公共交通機関には必要ではないでしょうか。

Planned Routes of K.R.B.



| 路線名    | 区 間    | 路線キロ | 路線名     | 区 間     | 路線キロ |
|--------|--------|------|---------|---------|------|
| ① 鶴町線  | 栄—鶴町   | 7.9  | ④ 金城線   | 高—堀—金城線 | 11.3 |
| ② 栄線   | 栄—伏見   | 15.2 | ⑤ 新出来町線 | 栄—引山    | 10.4 |
| ③ 山手線  | 本山—新瑞枝 | 7.2  |         |         |      |
| ④ 富田線  | 金山—富田  | 9.0  |         |         |      |
| ⑤ 市橋町線 | 神安路—富田 | 11.0 |         |         |      |

基幹バス構想路線

若手所員のバックナンバー追跡調査。いかがでしたか。チームごとに様々な方法で調査に挑みました。全員で討論するチーム、分担してあちこちに飛び回ったチーム。編集局では当初、各チームに1ページずつの割りしか用意しなかったのですが、それでは絶対に足

りないとページ数を増やしたチームと、沢山の内容をどうにか1ページにまとめあげたチームとで、ページ数に格差ができてしまいました。編集局も若手の熱意に圧倒された形でした。今後もこのような機会をどんどん作っていききたいと思います。

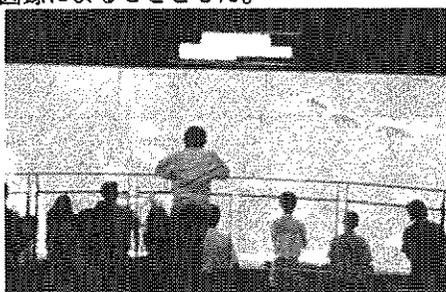
海よりでっかいうみがある。

—鳥羽水族館新館見学—

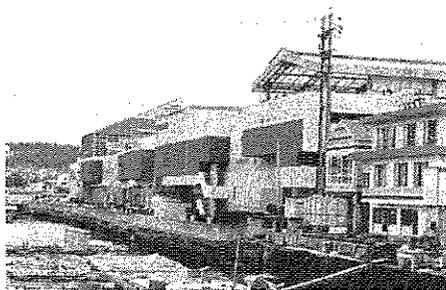
山下 宏

表題のコピーを駅のポスターで見られた方もあろうかと思えます。第3次水族館建設ブームの中、今回、この代表的施設の一つ「鳥羽水族館新館」を見学しお話を聞く機会を得ました。紙面の都合と既に色々と紹介されていることもあり、かいつまんで4点ほど。

この新館は、(株)鳥羽水族館が三重県と鳥羽市から5%ずつの出資を得て第3セクター（資本金1億円）を設立、リゾート法による整備施設としてNTT無利子融資を受け昨年7月開館。開館以来ほぼ1年を経過したところでの実績は、入場者数約270万人、売上約70億円。目玉の動物の時代ではなく、目玉の水槽の時代（大水槽を競うという意味ではなく）と考え、動物一匹を見せるのではなく環境の体感を高め、見る側の知識や興味の違いに対応できるよう、各ゾーンの展示内容以外の個々の動物の説明は極力廃し、細かい解説は別途図録によることとした。



手すり手前がステージ  
向こう側が通路式となっている



海側から見た新館全景

一日中でも1時間でも居られる水族館とするため、ゾーン別展示とし順路を無くし、見たい所だけでも行けるよう、好きな所だけゆっくり見れるようにした。さらに、従来の水族館の通路が観覧場所となっていることによる「立ち止まらないで下さい」という状況を無くすため、通路の後ろにステージを設け、立ち止まって見るができるよう、また急ぐ人はステージからぐるっと見渡す程度でショートカットできるよう工夫した。

今後は2期工事での現本館の引っ越しをはじめとして、コンサートや結婚式等の企画がある他、シャトルボートの充実やウォーターフロントの歩道の整備等を行い、海側をメインエントランスとしていくことが課題、とのこと。（名古屋事務所 やました ひろし）

我が国の国際化について思うこと

高田 昌幸

近頃各地でわが国の国際化に対応した地域づくりが行われていますが、ここで、わが国における国際化とはいったい何なのか、について思うことを述べます。

そもそも日本の地域のアイデンティティとかいうものは、常に東京とか欧米からの情報、文化といったものに対抗する形で意識されてきた部分が非常に強いように思われます。例えば、九州各地の人々は福岡にあこがれる一方で、誇りゆえにそれに対応する地域の「我」を守ってきた福岡では、その羨望と対抗の対象は大体が東京であって、東京ではそれがアメリカなのではなかったのか、と思います。つまり、たてまえはともかく大部分の日本人にとって生活様式のカッコ良さとしては、一番偉いのはアメリカで、地方都市の人々は一番カッコ悪いと思われてきたようです。

ところが昨今の国際化のブームの中で、地方に生活する我々の目の前に、欧米の人々が夢にまで見たあこがれの生活様式とともにダイレクトにやってくるのではないか、もはやカッコ良さは東京だけのものではないぞ、我々は直接にあの生活様式と対等につき合うのだ、という意識が生じたのではないのでしょうか。だから、地方でも猫も杓子も国際化、となったのではないのでしょうか。

しかし、これまた突然にどこの地域も、はたと困ってしまった。国際化って何だ、どうしたらいいのだ。西欧人とお祭でもするのか、住んでもらうのか、皆で英語を話すのか、いくつかやってみなければどうも我々の生活は変わらないみたいです。一方でアジアの人々が大勢日本にやってくる、彼らだけのコミュニティを各地で形成しつつあります。我々は彼らと積極的に仲良くすべきなのか、できるだけ触れないようにすべきなのか。なんだか国際化というのは、華やかな事ばかりではなさそうで、世界のボーダレス化の流れの中で、実は随分と我々一人一人の国際人としてのあり方を厳しく問われることのようにです。

私は国際化というのは、様々な人種的文化的異質性を受け入れることが出来るような社会が形成されていくことであると思います。国際化を唱える以上その様な社会になる覚悟が必要でありますし、また時代の流れは我々にそうすることを強いているように思います。

先日、私は韓国釜山に行ってきました。そこで慶南大学教授の朴仁鎬氏の仲介により釜山道轄市国際担当諮問大使の権丙鉉氏をはじめ都市計画局長、都市計画課長、釜山発展システム研究所の方々とお会いしました。そして日本の、また福岡との国際交流について意見を交換しました。その話の中で印象深かったのが、権丙鉉氏の言われた「我々は長い目

でみなければいけないと思います。世界の各国といろいろな形で交流していくことが大切ですが、我々は日本と、福岡ともっともっと交流を深めたいと思っています。我々は日本からもっと学ばなければならないのです。」

という言葉でした。日本では、国際化、国際交流、とうたわれている割には自分達からの一方的な国際化の宣言ばかりで、相手の人々が我々をどう思っているのか、彼らは我々に何を期待しているのかは余り聞こえてきません。我々は、国際化を唱える以上、国際化をせざるを得ない以上、かれらの声をもっと聞き、彼らに対してしたり顔をしたりして思い上がったりせずに、必要ならば彼らと同じ土俵で真剣にけんかをすることも必要なのではないのでしょうか。

(九州地域計画研究所 たかた まさゆき)

'91オアシス・クリーンアップ・  
キャンペーンのご案内

このたび、大阪府のため池施策の指針である『オアシス構想』の実現に向けて、ため池のクリーンアップ（大掃除）や水辺での催しに市民自らに参加してもらおうという主旨のキャンペーンが府下一円で実施されます。

多くの方々の参加をお待ちしております。

[キャンペーン期間]

11月3日（日）～12月1日（日）

[主な催しの日時と会場]

- 日時 91年11月24日（日）
- 会場 牛ヶ首池（吹田市）  
服部川惣池（八尾市）  
明治池（富田林市）  
久米田池（岸和田市）

詳しくは下記までお問い合わせください。

大阪事務所 畑中直樹、若林秀和

## 読者からのお便り

ニュースレターを読み返して

元精華町助役 木村 孝子様

「サンデー毎日」の生活は如何?と問われて、蟬の大合唱を聞きながら庭の雑草との根くらべというところですが、その繁殖力には追いつけず、また暑さも何のそのとばかりに庭木や草の間を飛び交う蝶や小鳥の姿を眺め、生命力の旺盛さに思いを新たにしているところであります。

さて、来る11月にはニュースレター50号となる由のお便りを読んで、何時頃から読ませて頂いているのかなと思って書棚を見ますと32号からでした。早速頁をめくりますと、まず三輪先生の「学研都市10年—その1 奥田先生と語る」が目にとまりました。学研都市構想の実現には、精華町を中心として大手デベロッパーが土地を所有している京阪奈丘陵一帯において他には無いと、奥田先生が町長に訴えられた昭和52年7月19日以来15年を経過しようとして居ます。引きつけられるような気持ちで33・34・35号の頁をめくり、その4までを読み返しました。昭和45年に奥田先生が人類の幸せの為に学者は何をなすべきかとの発想から決心をされ、多くの学者の皆様と共にブースター構築と着火を目指されての研究・準備・説得行動へと深い情熱を傾けられたことに今更ながら敬服申し上げますと共に、行政の一端で30有余年を過ごした者として官におけるカベは体験済み、カベを取り除くということの重要性を痛感するものであります。

長い月日の中で色々な事が絡み合って出来てきたこの世の仕組みは所詮人間がつくったもの、この仕組みを改めて行くには人々が幼い時から暖かい心を大切にお互をもちたてな

がら、しかも自由闊達に能力を伸ばして社会に奉仕していく人間になってほしい。大人は皆その為に努力する責任があるのではないかとつくづく感じて居る昨今であります。

アルバックの社員皆様、これからも大いに能動的な仕事振りを発揮され、地域社会の向上発展の為にますます御活躍下さいませよう心から祈念申し上げます。

ニュースレター50号にあたり

日本開発銀行 寺島 昌宏様

アルバックニュースレター50号の発行御目出度う御座います。

二か月に一度、地域おこしの心の種を、丹念に拾っては御届頂き、有難う御座います。何時も興味深く拝見させて頂いております。

この草子で取り上げられる対象は、旧い街なみであったり、新しいコミュニティーであったり、特産物であったり色々ですが、底に流れる共通のテーマの一つに、人の心の温もりとでも言うようなものを見付けることができるように思われます。これは、アルバックの人々が当初から大事にされて来た事で、このシンクタンクの個性が最も感じられるところでは。

ところで、最近のニュースレターを見ていて、基本線は変わらないものの、物を見る角度や感性に今迄と違うものが感じられるのは、八年の歳月の流れに依るものでしょうか。新しい人が、どんどん入って来て、新しい感性が注入されるのは、頼もしいところですが、良き伝統も大切に、一層の感性と発想の鍛錬で、普通のコンサルには無い、独自の情報発信が出来る、面白いシンクタンクが作られ

るのを楽しみにしたいと思います。第一世代が、仕事を超えて、われわれにアクセプタブルな型を持ち、今尚もりもりと活躍されているように、次世代も新時代に相応しい型で、我々を受け入れて頂きたいと思います。

それには、トップは、今迄以上に、儲からない事をどんどん企画できる余裕を持つ事が必要かも知れません。無駄な様で、為に成る付き合いを、今後お願いします。

独断と偏見は、不肖のなせる業で、寛恕の程、お願い上げます。

がんばれ雲仙温泉街

九州総合科学大学教授 片寄 俊秀様

雲仙・普賢岳の噴火は、自然の大きさと人間の存在の小ささをいやというほど見せつけてくれています。猫の額のような土地をめぐる人間どうしの醜い争いなどに巻き込まれて憂鬱な日々を送っておられる向きなどには、ぜひ一度この大自然のすごさをじっくりと味わう機会を持たれることをお勧めしたい。人間とはいかにちっぽけなものなのか、人類社会の明日はいかにあるべきか、たかが人生、されどこの人生をいかに生くべきかなど、原点に立ち返って物事を考えるいい契機となるのではないかと思うのです。

こういう進行性の災害に対して地域再生の展望をどうつくりだすか。私自身もプロとしての力量を問われているのですが、まったく何も見えず、お客がこないためお先まっ暗の状況にある雲仙温泉のお湯につかって、じっと考え中。いま穴場の中の穴場の雲仙温泉街。浮き沈みの大きさは他人ごととは思われません。お湯のなかで一緒に考える仲間を募集中です。

#### アルバックセミナーを開催しました

「座談会」にご出席いただきました、御船氏を講師として「ニュータウン開発と地域社会」をテーマに、9月7日、アルバックセミナーを開催いたしました。高蔵寺ニュータウンの開発に当初からかわられながら、住民のひとりとしても、保育所やホールの建設などのまちづくりの運動に参加されたこと、コミュニティペーパーづくりや新設学校を活用した婦人学級の開催など、貴重なご経験を紹介していただきました。当日は、所員のほか、開発に携わっておられる自治体の職員の方にも参加していただき、有意義なセミナーとなりました。紙面をかりてお礼申し上げます。

#### 編集局より

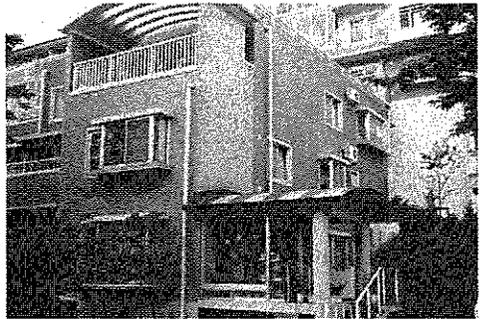
○「読者からのお便り」には、掲載させていただいたもののほか、西川育男様（高槻市企画調整室）、西川馨様（和設計事務所長）からもはげましのお言葉をお寄せいただきましたが、紙面の都合でご紹介できませんでした。お便りをお寄せいただいた皆様、どうもありがとうございました。

○今回は、発行50号を記念した特集号といたしました。約5ヶ月前から準備にとりかかりましたが、創刊は0号から始まっていることがわかり、局員一同顔を見合わせてしまいました。バックナンバーのリストも入れさせていただきますので、振り返って見ていただければ幸いです。

○創刊の1983年は、日本海中部地震や大韓航空機事故、ワレサ氏のノーベル賞受賞などのあった年でしたが、ずいぶん昔のこのように思われます。さらに100号記念号も出せるよう、編集局員一同がんばりますので、よろしくご指導下さいますようお願いいたします。

# まちかど

多摩ニュータウン  
—東京で味わえる南欧—  
平岡 千佳子



## 30年の長期プロジェクト

「ここはどこだろう？」多摩ニュータウンの住宅地を歩いていると、自分の暮らす同じ日本なのか分からなくなった。

TVのロケでも頻繁に利用される多摩ニュータウンは、1963年に造成が着手され、住宅地部分の完成は1990年代という30年間にわたる長期プロジェクトである。

文化ホール「パルテノン多摩」はその名の通りあたりには静かな雰囲気漂う。周りの公園にはベンチが見あたらない。神聖なイメージを壊さない配慮がされているのだろうか。パルテノン多摩から少し離れたところにはサンリオの経営するテーマパーク「ピューロランド」がレインボーカラーに輝いている。あまりの色彩のけげげささに付近の住民から苦情が出たそうである。

「ベルコリーヌ南大沢」は南欧風の住宅が建ち並ぶ。軒先には鉢植えが下げられ、階段の起伏ある通路はいつか見た外国映画を思い出させた。

おもしろいのはプラスワン住宅であった。1階部分にフリースペースがついていて、趣味の活動の場、塾、ブティックなどに自由に利用できる。装飾のスペースとして住む人のセンスを活かしてデコレーションしてある家もあった。個人美術館と呼ぶのにふさわしい。生活臭のないのが個性？

多摩ニュータウンは生活臭が漂ってこない。整然としている。自分が住んでいたらサンマを焼くのはばかられる。生活臭のないのがこのまちの個性なのだろうか。

これから30年、40年経ったとき、多摩ニュータウンはどう変化していくのか？ニューファミリーと呼ばれる今の住民たちは平均年齢が上がり、住む人の様子も変わってくる。そのときのまちの様子を知りたい。

今、東京で異国を味わうのなら六本木や麻布より多摩ニュータウンではないかと思う。

(東京事務所 ひらおか ちかこ)

## アルパック (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

|                     |  |                      |
|---------------------|--|----------------------|
| 本社                  | 〒600 京都市下京区四條通り高倉西入ル立売西町82<br>(大和銀行京都ビル6階) | TEL (075)221-5132(代) |
| 京都事務所               |  | FAX (075)256-1764    |
| 大阪事務所               | 〒540 大阪市中央区城見1-4-70<br>(住友生命OBPプラザビル15階)   | TEL (06)942-5732(代)  |
|                     |  | FAX (06)941-7478     |
| 名古屋事務所              | 〒460 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号<br>(ツボウチビル2階)      | TEL (052)962-1224(代) |
|                     |  | FAX (052)962-1225    |
| 東京事務所               | 〒160 東京都新宿区新宿2-5-16<br>(露ビル401号)           | TEL (03)3226-9130(代) |
|                     |  | FAX (03)3226-9560    |
| 九州地域計画<br>研究所       | 〒810 福岡市中央区天神1丁目15番1号<br>(日之出ビル6階)         | TEL (092)731-7671(代) |
|                     |  | FAX (092)731-7673    |
| ㈱アルパックイン<br>ターナショナル | 〒540 大阪市中央区谷町1丁目5番7号<br>(ストークビル天満橋10階)     | TEL (06)943-7016     |
|                     |  | FAX (06)943-7026     |
| ㈱都市居住文化<br>研究所      | 〒604 京都市中京区東洞院通六角上ル 三文字町225<br>(朝陽ビル4階)    | TEL (075)252-2231    |
|                     |  | FAX (075)252-4417    |